第十一條　雇人タラントスル者ヲシテ猥褻若クハ賭博ニ類スル所爲ヲナサシメ又ハ口入ニ托シテ人ヲ宿泊セシムヘカラス

第十二條　請宿營業者ハ雇人又ハ雇主ヲ欺キ雇人ヲシテ他人ノ家宅ニ轉換セシメ又ハ種々ノ名義ヲ以テ金錢ヲ乞フヘカラス

第十三條　請宿營業者ニ於テ雇主ニ雇人ヲ周旋セントスル場合ニ其雇人ノ性質ヲ告知スルトキハ眞實ヲ旨トスヘシ

第十四條　請宿營業者ハ雇人身元ノ保証及給金額又ハ期限內解雇ノ場合ニ於テ其給金ハ日割ヲ以テスル等總テ結約ノ事項ヲ記載シタル證書ヲ雇主ニ差出スヘシ若シ其營業者ニシテ廢業スルト雖モ口入シタル雇人約定期限中ハ保證ノ責ニ任スルモノトス

第十五條　前條ノ結約整ヒタル上口入料ハ雇主雇人双方ヨリ半額宛ヲ請求スヘシ若シ雇人不適當ニシテ期限內交換スル場合ハ最初受領シタル口入料ノ外雇主ヨリ請求スルコトヲ得ス

第十六條　請宿營業者ハ書式ノ雇人口入名簿ヲ調製シ結約整フタル毎ニ名簿ニ記入シ警察官吏臨檢ノ節檢閲ヲ受クヘシ

第十七條　請宿營業者ハ警察署又ハ分署ノ所轄ヲ一區域トシ組合ヲ設クヘシ但營業者少數ニシテ組合ヲ設クル能ハサルトキハ其事由ヲ詳記シ合併セントスル組合取締人加印ノ上所轄警察署又ハ分署ヘ届出認可ヲ受クヘシ

第十八條　組合ニ於テハ規約ヲ定メ且ツ組合中ヨリ取締一人ヲ公撰シ所轄警察署又ハ分署ノ認可ヲ受クヘシ

第十九條　營業上ニ關スル願届ニハ取締人ノ加印ヲ受クヘシ

第二十條　請宿營業者ハ組合ニ關スル費用ヲ負擔スヘシ其組合ニ入ラサルモノハ營業ヲ爲スコトヲ得ス

第廿一條　取締人ニ於テ取扱フヘキ事項左ノ如シ

一　營業ニ關スル諸規則命令ヲ組合營業者ニ通知スル事

二　組合營業者ノ願届ニ加印シ意見アルモノハ其旨添申スル事

三　營業者名簿ヲ製シ增減變更アル毎ニ之ヲ加除スル事
四　組合ニ關スル費用ヲ取立及ヒ之ヲ支拂フ事
五　組合ニ關スル諸費ヲ決算シ之ヲ組合ニ報告スル事
六　取締人任學ニ關スル事
右ノ外規約ヲ以テ定メタル事項
第廿二條　組合規約ニ掲クヘキ事項左ノ如シ
一　組合ノ名稱及事務取扱所ノ位置
二　取締人ノ撰擧及任期ニ關スル事
三　組合會議組織ノ事
四　組合費用ノ賦課及收支ノ事
五　雇人口入取扱ノ事
六　雇人口入料定額ノ事
七　雇人宿泊料定額ノ事

八　違約者取扱ノ事
九　擧動不審ノ者ヲ警察官吏ニ報告スル事
右ノ外營業上必要ノ事項
第廿三條　左ノ資格ニ適合スル者ニアラサレハ組合取締人タルヿヲ得ス
一　年齡滿二十五年以上ニシテ組合區域內ニ相當ノ家屋若クハ土地ヲ所有スル者
二　營業ニ關スル諸規則ヲ解讀シ筆算ニ差閊ナキ者
第廿四條　取締人ニ不都合ノ所爲アリト認ムルトキハ任期中ト雖モ臨時改撰セシムルヿアルヘシ
第廿五條　第二條第七條第十條第十一條第十二條ニ違背シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス
第廿六條　第九條第十六條ニ違背シタル者ハ一日ノ拘留ニ處シ又ハ拾錢以上壹圓以下ノ科料ニ處ス

第廿七條　第四條第五條ニ違背シタル者ハ五錢以上五拾錢以下ノ科料ニ處ス

附則

一從來ノ營業者ハ本則施行ノ日マテニ第二條ノ手續ニ從ヒ所轄警察署又ハ分署ニ願出免許証ヲ受クヘシ其願出中ハ引續キ營業スルヿヲ得

（書式）

雇人口入名簿

雇人ノ族籍住所氏名年齢	雇入口入月日	雇人雇ハレ期限	雇人ノ給金	雇主ノ族籍住所氏名

○甲第六十五號　明廿一年六月七日

獣畜死屍取締規則左ノ通相定メ本年十月一日ヨリ施行ス

二十一年十月甲第八十五號ニテ更正　刪除

獣畜死屍取締規則

第一條　此規則ニ於テ燒場埋場ト稱スルハ牛馬羊豚犬猫ノ死屍ヲ燒棄及埋却スル場所ヲ云ヒ單ニ死屍ト稱スルハ牛馬羊豚犬猫ノ死体ヲ總稱ス

第二條　燒場及埋地ヲ新設シ又ハ取廣メントスルトキハ其地幷ニ近傍明細圖面ヲ添ヘ所轄警察署又ハ分署ヲ經由シ縣廳ノ許可ヲ受クヘシ

第三條　燒場及埋場ハ一町村各一ケ所ニ限ルヘシ但土地ノ狀況ニヨリ止ムヲ得サルモノハ特ニ增設ヲ許可シ又其町村内ニ適當ノ場所ナキトキハ他町村ト聯合設置ヲ許可スルコトアルヘシ

第四條　埋地ヲ新設スルハ國道縣道鐵道川流ニ沿ハス人家ヲ隔ツルコト凡六十間以上ニシテ土地高燥飲料水ニ障リナク且ツ成ルヘク荒蕪ノ地ヲ撰ブヘシ

第五條　燒場ハ前條ノ外人家ヲ隔ツル二百間以上ノ地ニシテ常ニ風筋ニ嫌ナキ地ヲ撰ミ臭烟ヲ防クノ用意ヲ爲スヘシ

但山林原野ニシテ遠ク人家ヲ隔ツル地ハ格別ナリトス

第六條　燒場及埋地ノ周圍ニハ樹木ヲ植ヘ又ハ土手ヲ築キ他ノ地ト區域ヲ明瞭ニスヘシ

第七條　死屍ハ其飼養主ニ於テ燒棄又ハ埋却シ飼養主ナキモノ及ヒ其不分明ナルモノハ地主又現住者ニ於テ燒棄又ハ埋却スヘシ

但道路ニ於テ死屍アルヲ認知シタルトキハ掃除負擔ノ責アル者ニ於テ飼養主ノ有無ニ拘ハラス直ニ取餘キ置キ本條ノ手續ヲ爲スヘシ

第八條　所有地內ニ飼養主アル死屍ヲ發見シタルトキハ其地主又現住者ニ於テ飼養主ニ通知スヘシ若シ飼養主隔絕ノ地ニ在リ急速ニ處分ヲ爲シ得サルトキ及ヒ飼養主不分明ナルトキハ牛馬ノ二種ニ限リ最寄埋地ニ假埋ノ上其旨所轄戶長役場ヘ屆出ヘシ

第九條　燒場及埋地ニハ管理者ヲ設ケ不潔ナカラシムヘシ

第十條　死屍ヲ燒棄スルハ成ルヘク日沒後ニ之ヲ行フヘシ

第十一條　死屍ヲ埋却スル壙穴ハ牛馬羊豚ニアリテハ深サ六尺以上犬猫ニアリテハ深サ三尺以上タルヘシ

第十二條　第二條第七條第八條第十一條ニ違背シタルモノハ五錢以上五拾錢以下ノ科料ニ處ス

但第七條但書中ノ所爲ニシテ刑法ニ明文アルモノハ刑法ノ刑ニ處セラルヘシ

○甲第八十三號　明治廿二年九月廿五日

本年(六月)縣令甲第六十五號獸畜死屍取締規則施行期限ノ義來ル十一月一日ト改ム

○縣令甲第八十八號　明治廿一年十月廿七日

凍氷營業取締規則左ノ通相定メ來ル十月一日ヨリ施行ス

但明治二十年縣令甲第百二十一號達ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

(全文ハ衛生ノ部ヘ掲ク故ニ爰ニ省略ス)

○縣令甲第二號　明治廿二年一月十二日

明治十一年(十二月)縣甲第九十七號畜犬取締規則左ノ通改正ス

畜犬取締規則

第一條　畜犬ハ其畜主ノ住所氏名ヲ詳記シタル頸環又ハ牌子ヲ附ケ置クヘシ

第二條　凡ソ無標ノ畜犬ハ總テ野犬ト見做スヘシ

第三條　何人ニ限ラス警察官吏ノ指揮ナクシテ野犬タリトモ濫リニ撲殺スルヿヲ得ス

第四條　畜犬狂猛ニシテ人畜ヲ傷害スルノ虞アルカ又ハ傳染病ノ兆候アル者ハ畜主ニ於テ嚴ニ之ヲ繫鎖シ逸走ノ患ナカラシムヘシ

其傳染病ノ兆候アル者ハ速カニ所轄警察署分署又ハ巡査駐在所ニ屆出ツヘシ

第五條　警察分署又ハ巡査駐在所ニ於テ其傳染病タルヲ認定シタルトキハ警

察官吏立會ノ上畜主ヲシテ之ヲ撲殺セシムルヿアルヘシ

但本文ニ依リ撲殺シタル畜犬ノ死屍ハ警察官吏ノ指定シタル場所ニアラサレハ濫リニ他ニ移轉スルヿヲ許サス

第六條　野犬狂猛ニシテ人畜ヲ傷害スルノ虞アルカ又ハ傳染病ニ罹リタル者ト認定シタルトキハ警察官吏ニ於テ之ヲ撲殺セシムヘシ

第七條　畜犬ト野犬ヲ問ハス狂猛ニシテ人畜ヲ傷害スルノ虞アルカ又ハ傳染病ニ罹リタル者アルヲ見認メタル者ハ速ニ所轄警察署分署又ハ巡査駐在所ニ屆出ツヘシ

第八條　第三條第四條第五條但書ニ違背シタル者ハ拾錢以上五拾錢以下ノ科料ニ處ス但第三條第四條中ノ所爲ニシテ刑法ニ明文アル者ハ刑法ノ刑ニ處セラルヘシ

○訓令甲第七號　明治廿二年一月十七日　戶長役場

縣令甲第二號畜犬取締規則第六條ニ依リ撲殺シタル野犬ノ死屍ハ警察官吏

ノ照會ニ依リ相當ノ處分スヘシ

○縣令甲第三十號　明治廿二年三月三十日

明治二十年(三月)縣令甲第四十六號藝妓取締規則別紙之通改正ス

但從來ノ營業者ハ十日以内ニ所轄警察署又ハ分署ニ其免許証ヲ添ヘ届出更ニ認可ヲ受クヘシ

（別紙）

藝妓取締規則

第一條　藝妓營業ヲ爲サントスル者ハ族籍住所氏名年齢及藝名ヲ詳記シタル書面ニ町村長ノ奥書ヲ受ケ所轄警察署又ハ分署ニ届出認可ヲ受クヘシ

其他人ノ家ニ同居寄留スル者ハ其戸主ト連署スヘシ

第二條　警察署又ハ分署ノ所轄ヲ異ニスル土地ニ轉住シテ營業セントスル者ハ更ニ前條ニ準シ届出認可ヲ受クヘシ

第三條　轉居改氏名又ハ廢業シタルトキハ五日以内ニ所轄警察署又ハ分署ニ届出ツヘシ

第四條　夜間十二時後ハ歌舞音曲ヲ爲スヘカラス

○訓令甲第百十二號　明治二十年三月廿六日　郡役所

明治十八年(二月)乙第九號布達藝妓取締規則第一條ニ依リ來ル二十年度四月中下渡スヘキ營業鑑札ハ左ノ雛形ニ準シ調製スヘシ

板鑑札雛形　寸法 長曲尺二寸 幅同一寸三分　烙印寸法適宜

二十年度第何號

○　藝妓營業鑑札

國郡町村
氏　名

明治何年

福島縣何郡役所

何月何日

○甲第五十三號　明治廿二年四月廿七日

明治二十年三月十八日縣令甲第四十七號貸座敷娼妓取締規則別紙ノ通改正ス

但從前ノ免許証ニ依リ營業スル者ハ此際別ニ出願スルニ及ハス

貸座敷娼妓取締規則

第一章　通則

第一條　貸座敷營業ハ遊廓内又ハ從來許可シタル場所區域ノ範圍内娼妓營業ハ貸座敷内ニ限ルヘシ

但貸座敷ハ從來許可シタル場所區域ノ範圍内ト雖モ國縣道ニ沿フタル場所ニ於テハ新規營業（代替繼續營業ハ除ク）ヲ許サス

第二條　營業上ニ關スル願屆ハ取締人ノ加印ヲ受クヘシ

第三條　貸座敷及娼妓營業者他ニ轉住セントスルトキハ其旨願出ツヘシ

第四條　改氏名又ハ廢業若クハ契約書ヲ變更シタルトキハ五日以内ニ屆出ツヘシ

第五條　遊客中不相當ノ金錢ヲ浪費シ其他不審ノ擧動アルトキハ貸座敷主及娼妓ハ直ニ警察官吏密告スヘシ

第六條　病氣（梅毒ヲ除ク）又ハ事故アリテ休業スルトキハ其事由ヲ詳記シ屆出ツヘシ

但一年以上休業スル者ハ許可ノ効ヲ失フモノトス

第二章　貸座敷

第七條　貸座敷營業ヲナサントスルモノハ別紙書式ノ願書ニ町村長ノ奥書ヲ受ケ所轄警察署又ハ分署ニ出願許可ヲ受クヘシ

第八條　左ノ各項ニ觸ルヽモノハ貸座敷營業ノ許可ヲ與ヘス

但第三項ニ觸ルヽモノト雖モ悛改ノ狀アリト認タルトキハ特ニ免許スルヿアルヘシ

一　未丁年者ニシテ後見人ナキ者

二　白痴瘋癲者

三　幼者ヲ略取誘拐スル罪强盜ノ罪竊盜ノ罪詐欺取財ノ罪ヲ犯シタルモノ又ハ其他ノ罪ヲ犯シ監視中ノ者

第九條　貸座敷營業ハ一戸内ニ於テ宿屋幷ニ雇人請宿ヲ兼業スルヲ得ス

第十條　貸座敷營業者ハ店頭ニ左ノ看板ヲ掲クヘシ

貸座敷營業

屋號	氏名

竪三尺五寸
横九寸
木質適宜

第十一條　遊廓ノ設ケナキ場處ニ於テハ公然娼妓ヲシテ見世ヲ張ラシムヘカラス

第十二條　貸座敷營業者ハ自宅ニ於テ親屬ニ娼妓營業ヲナサシムヘカラス

第十三條　娼妓妊娠滿六ケ月以上分娩後七十日以内又ハ梅毒若シクハ傳染病ニ罹リタル者ハ營業ヲ爲サシムヘカラス

第十四條　貸座敷營業者ハ遊客ノ住所氏名年齢容貌衣服ノ品類ヲ詳記シ翌日午前九時迄ニ警察署分署巡査駐在所ニ屆出ツヘシ

但警察署分署巡査駐在所アラサル地ハ土曜日毎ニ屆出ツヘシ

第十五條　客ノ需メサル酒肴ヲ出シ又ハ之ヲ強ユヘカラス

第十六條　遊興費ノ抵當トシテ客ノ着服物品ヲ受取ルヘカラス若シ不得止場合ニ於テハ警察官吏ノ承諾ヲ受ヘシ

第十七條　娼妓ヲ遇スルニハ誠實ヲ旨トシ且ツ濫リニ故障ヲナシ其他苛酷ノ取扱ヲナスヘカラス

第十八條　寄留ノ娼妓逃走又ハ立戻リタルトキハ其貸座敷主ヨリ直チニ屆出ツヘシ

第十九條　便所ハ臭氣ノ客室ニ及ハサル處ニ設ケ尿屎ヲ受容スヘキ部分ハ石敲陶器等ヲ以テ構造スヘシ

第三章　娼妓

第二十條　娼妓營業ヲ爲サントスル者ハ別紙書式ノ願書ニ身体檢査証幷ニ貸座敷主トノ契約書寫ヲ添ヘ町村長ノ奥書ヲ受ケ本人携帶所轄警察署又ハ分署ニ出願許可ヲ受クヘシ

第廿一條　娼妓營業ハ年齢滿十六年以上ノ者ニ限ルヘシ

第廿二條　娼妓ハ身体檢査ノ外病氣親屬ノ吉凶看護墓參其他不得止場合ノ

外免許地外ニ出ルコトヲ得ス

但外出スルトキハ貸座敷主ヲ經テ取締人ノ承認ヲ受ケ其証ヲ携帶スヘシ

第廿三條　娼妓ハ驅梅院又ハ依托醫ニ就キ期日毎ニ身体ノ檢査ヲ受クヘシ

若シ疾病ニ罹リ出頭シ難キトキハ貸座敷主連署ノ上檢査所派出ノ警察官吏ニ届出檢査醫ノ來診ヲ受クヘシ

但梅毒感染ノ兆候アルモノハ期日ニ拘ハラス速カニ身体ノ檢査ヲ受クヘシ

第廿四條　事故ニヨリ檢査期日ニ檢査ヲ受ケサルモノハ臨時檢査ヲ受クヘシ若シ檢査ヲ受ケサルモノハ次回ノ檢査日迄營業スルヲ得ス

第廿五條　有毒娼妓全治セシトキハ營業前其証ニ警察官吏ノ檢印ヲ受クヘシ

第四章　營業組合

第廿六條　貸座敷營業者ハ其免許地又ハ其近接ノ地ヲ一區域トシ組合規約ヲ設ケ且組合中ヨリ取締人一人ヲ互撰シ所轄警察署又ハ分署ニ届出認可ヲ受クヘシ其改撰并ニ規約ヲ變更シタルトキ亦同シ

但營業者三戸ニ滿タサル場所ハ所轄警察署又ハ分署ノ認可ヲ受ケ組合ヲ設ケス年番ヲ定メ取締ニ属スル事務ヲ取扱フヿヲ得

第廿七條　取締人又ハ年番ニ不適當ノ者ト認メタルトキハ改撰セシムルヿアルヘシ

第廿八條　貸座敷營業者ハ組合ニ關スル費用ヲ負擔スヘシ其組合ニ入サルモノハ營業ヲ爲スヿヲ得ス

第廿九條　取締人ニ於テ取扱フヘキ事項左ノ如シ

一　貸座敷及娼妓營業ニ關スル諸規則命令ヲ其營業者ニ通知スル事

二　貸座敷及娼妓營業上ニ關スル願届ニ加印シ意見アルトキハ其旨添申スル事

三　犯則者アリタルトキ警察官吏ニ申告スル事

四　貸座敷及娼妓ノ姓名簿ヲ製シ稼名氏名等級ヲ記載シ増減變更アル毎ニ加除スル事

五　組合ニ關スル費用ノ取立及決算報告ニ關スル事

六　梅毒檢査所諸務ノ事

右ノ外規約ヲ以テ定メタル事項

第五章　罰例

第三十條　第七條ニ違背シタル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第卅一條　第五條第十一條第十三條第十四條第十五條第十六條第十七條第廿三條第廿四條ニ違背シタル者ハ貳拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス

第卅二條　第四條第廿二條第廿五條ニ違背シタル者ハ五拾錢以上壹圓以下ノ科料ニ處ス

（書式）

貸座敷營業願

今般何々（新規又ハ某所有ノ家屋ヲ借受ケ又ハ某ヨリ讓受ト記スルノ類）候ニ付貸座敷營業致度候間御許可被成下度此段奉願候也

明治年月日

福島縣何國何郡何町（村）何番地平民（寄留）

願人　何　某印

年　齢

取締人　何　某印

警察署長又ハ分署長宛

（書式）

娼妓營業願

何々（事情ヲ詳記ス）ニ付今般何地某方ニ於テ娼妓營業仕度候間御免許被成下度契約書相添此段奉願候也

何府縣何國何郡何區何町(村)何番地平民(何某長次女)
何國何郡何町(村)何番地貸座敷營業何某力
寄留

願人　稼名　何　　某印
何年何月出生
何年何ヶ月

肩書同上
父又ハ母　何　　某印

(父母ナキモノハ其旨ヲ附記シ親屬ノ者父母親屬ナキモノハ慣ナル
証人二名)

肩書同上
貸座敷主　何　　某印
取締人　何　　某印

警察署長又ハ分署長宛

○縣令甲第五十四號　明治廿二年四月廿七日

娼妓ハ從來免許ヲ受タルモノニ限リ年齡十六未滿ノモノト雖モ繼續營業スルヿヲ得

○縣令甲第六十一號　明治廿二年五月四日

貸座敷及娼妓賦金徵收規則左ノ通相定ム

(全文ハ會計ノ部ヘ掲ケ爰ニ省略ス)

○訓令甲第九十號　明治廿二年五月十日　郡役所

本年(本月)縣令甲第六十一號貸座敷及娼妓賦金徵收規則中處分方左ノ通心得ヘシ

一賦金不納處分ニ關シ貸座敷及娼妓ノ營業ヲ停止シ又ハ停止ヲ解キタルトキハ其都度所在警察署若クハ分署ニ之ヲ通報スヘシ

○縣令甲第九十九號　明治二十二年八月二十四日

明治十七年二月乙第十四號布達古物商取締條例施行細則之通改正ス

（別紙）

古物商取締條例施行細則

第一條　古物商營業ヲナサントスル者ハ住所身分氏名年齢及其營業ノ種類ヲ記シ所轄警察署又ハ分署ニ願出免許鑑札ヲ受クヘシ

支店ヲ設ケントスルトキハ前項ノ外尚ホ其場所ノ町村番地ヲ記載シ開業五日以前ニ所轄警察署又ハ分署ニ届出ツヘシ

第二條　古物商中ノ兼業又ハ轉業（古者商ヨリ古道具商ニ轉スルノ類）ヲ爲サントスル者若クハ居商ニシテ行商ヲ兼ネ行商ニシテ居商ヲ兼ネ又ハ家族雇人ヲシテ行商ヲ爲サシメントスルトキハ前條ニ準シ願出免許鑑札ノ書換又ハ下渡ヲ受クヘシ

家族雇人ニ掛ルトキハ尚ホ前項ノ外其者ノ氏名年齢ヲ記載スヘシ

第三條　營業ニ關スル願届ハ取締人ノ連署ヲ受ケ差出スヘシ

但第十四條ノ届出ハ本條ノ限ニアラス

第四條　左ノ各項ニ觸ル者ハ免許ヲ與ヘス

但第四項第五項ニ觸ルモノト雖トモ悛改ノ狀アリト認メタルトキハ特ニ免許スルコトアルヘシ

一未丁年者ニシテ後見人ナキ者

二白痴瘋癲者及瘖啞者

三營業者禁停止ノ處分ヲ受ケ其禁停止中ニ於ケル同居ノ親族及雇人

四強窃盗及詐欺取財ノ罪又ハ刑法第三百九十九條第四百一條ノ處斷ヲ受ケタル者

五特別取締ニ附セラレ其期限內廢業シタル者

第五條　賭博ノ罪ニ因リ處斷ヲ受ケタル者ハ刀劍商ノ免許ヲ與ヘス

但悛改ノ狀アル者ハ特ニ免許スルコトアルヘシ

第六條　古物商ノ免許ヲ受ケ居商スル者又ハ支店ヲ設ケタル者ハ第一號書

式ノ看板ヲ製シ組合取締人ノ烙印ヲ受ケ店前衆人ノ見易キ場所ニ掲出スヘシ

但行商スル者ハ營業時間中ハ鑑札ヲ携帶スヘシ尤モ露店又ハ床店ヲ開カントスル者ハ豫メ書式ノ看板ヲ製シ置キ開店ノ際其店前ニ表出スヘシ

第七條　免許鑑札ハ他人ニ貸與又ハ讓與スヘカラス

第八條　免許鑑札ヲ失却毀損シタルトキ又ハ轉居改氏名等ニ依リ鑑札面ニ異動ヲ生シタルトキハ五日以內ニ其旨屆出再渡又ハ書換ヲ受クヘシ

第九條　廢業シタルトキハ免許鑑札及現存スル物品ノ素質摸樣員數ヲ記載シタル目錄書ヲ添ヘ五日以內ニ所轄警察署又ハ分署ニ屆出ツヘシ

但支店ヲ廢シタルトキハ其支店ニ現存スル物品目錄書ヲ添ヘ本分同樣屆出ツヘシ

第十條　警察署又ハ分署所轄外ニ轉任セントスルトキハ其運送スヘキ商品

ハ前條ニ定ムル目錄書ヲ添ヘ五日以前ニ屆出其移轉地ヘ到着シタルトキハ五日以內ニ免許鑑札ヲ添ヘ其地所轄ノ警察署又ハ分署ヘ屆出ツヘシ

第十一條　條例第五條ニ依リ官廳市町村學校病院社寺會社ノ印章記號アル物品ヲ買取リ又ハ交換スルトキハ証人ノ証明書ヲ取置クヘシ

第十二條　左ニ記載シタル者ハ証人タルノ効力ナキモノトス

但第四條第五條但書ニ依リ免許ヲ得タルモノハ此限リニアラス

一　未丁年者

二　雇主ト同居ノ雇人

三　白痴瘋癲者及瘖啞者

四　營業禁止又ハ停止中ノ者

五　強竊盜詐欺取財ノ罪又ハ刑法第三百九十九條同第四百一條ノ處斷ヲ受ケタル者

六　賭博犯ノ處斷ヲ受ケタル者（刀劍ヲ買取リ又ハ交換スル場合ニ限ル）

七特別取締ニ附セラレ其期限中ノ者

第十三條　條例第九條ニ依リ物品ヲ他府縣下ニ運送スルトキハ受取人差出人ノ住所氏名幷物品ノ素質摸樣員數等ヲ記載シタル届書二通ヲ作リ發送二日以前ニ警察署分署又ハ巡査駐在所ニ届出其一通ニ檢印ヲ受ケ物品ト共ニ運送スヘシ

又他府縣下ヨリ受取リタルトキハ着荷後二日以内ニ前項ニ準シ届出ツヘシ

第十四條　特別取締ニ付セラレタル者條例第十六條ノ場合ニ於テハ左ノ區別ニ從フヘシ

一第三項ノ場合ニ於テハ二日以内ニ所轄警察署又ハ分署ニ届出ツヘシ

二第五項ノ場合ニ於テハ其月十日以前ニ所轄警察署又ハ分署ニ差出シ檢査ヲ受クヘシ

三第六項ノ場合ニ於テハ其以前ニ所轄警察署又ハ巡査駐在所ニ届出認可

受クヘシ

第十五條　古物商ハ左ノ帳簿ヲ製シ品觸綴帳ヲ除クノ外新調又ハ紙數ヲ增減シタルトキハ其紙數ヲ記載シ所轄警察署又ハ分署ノ檢印ヲ受クヘシ若シ使用上誤書等ニ依リ更ニ記載スル場合ト雖モ誤書ノ文字ハ其旨ヲ附記シ字休ヲ存スヘシ

支店ハ其店舗ニ備置キ行商ハ其營業時間携帶スヘシ

一物品(買受讓受)明細帳

此帳簿ハ物品ヲ買受ケ又ハ讓受ケタルトキ第二號書式ニ準シ記載シ警察官吏ノ許可又ハ認可ヲ受ケタルトキハ其旨ヲ記載シ檢印ヲ受クヘシ

二物品(賣渡讓渡)明細帳

此帳簿ニハ物品ヲ賣渡又ハ讓渡シタルトキ第三號書式ニ準シ記載スヘシ尤モ住所氏名年齡ハ之ヲ知リ得タルトキ記入スヘシ

三物品預リ明細帳

此帳簿ニハ物品ヲ預リタルトキ第四號書式ニ準シ記載スヘシ

四品觸綴帳

此帳簿ニハ品觸書ノ到達シタルトキハ年月日時ヲ附記シ順次編綴スヘシ

第十六條　自用品ト商品トハ常ニ判然區別シ置クヘシ若シ自用品ヲ商品ト爲シ若クハ商品ト同種類ノ自用品ヲ賣渡シ讓渡ヲ爲シタルトキハ前條第二ノ帳簿ニ物品ノ素質摸樣員數ヲ附記シ置クヘシ

第十七條　古物市場ヲ開設セントスルトキハ其市場ノ位置開場期日時限ヲ記載シ豫メ所轄警察署又ハ分署ニ願出許可ヲ受クヘシ

其位置及期日時限ヲ變更セントスルトキモ亦同シ

但臨時市場ヲ開カントスル時モ亦本條ニ準シ願出テ許可ヲ受クヘシ

第十八條　市場ニハ開市時限中第五號書式ノ標札ヲ表出スヘシ

第十九條　市場ニ於テハ第六號書式ノ帳簿ヲ製シ置キ當日持參シタル物品ハ其素質摸樣員數及其物主並古物商人ノ住所氏名ヲ記載シ取締人又ハ副取締人ノ檢印ヲ受クヘシ若シ使用上誤書等アリタルトキハ第十五條ノ諸帳簿記載例ニ據ルヘシ

當日賣渡シタル物品ハ其代金讓渡シタル物品ハ其見積金ヲ記シ尚ホ買主讓受主ノ住所氏名ヲ知リ得タルトキハ之ヲ附記スヘシ

第二十條　品觸ニ類似シタル物品アルトキ又ハ不審ノ擧動アル者ヨリ物品ヲ賣渡サントシ若クハ交換ヲ乞フ者アルトキハ直チニ警察官吏ニ密告スヘシ

第二十一條　古物商營業商者ハ警察署又ハ分署ノ所轄ヲ一區域トシ組合ヲ設ケ組合毎ニ規約ヲ定メ且ツ取締人一名ヲ互撰シ所轄警察署又ハ分署ニ屆出認可ヲ受クヘシ

但土地ノ狀況ニ依リ所轄警察署又ハ分署ノ認可ヲ經テ一組合ヲ更ニ數組ニ分チ一組毎ニ副取締人一名ヲ置クヿヲ得其副取締人ノ撰擧及屆出

方ハ本條ニ同シ

第二十二條　左ノ資格ニ適合スルモノニアラサレハ取締人及副取締人タルコトヲ得ス

一年齡滿二十五年以上ニシテ組合區域內ニ相當ノ家屋若クハ土地ヲ所有スル者

二營業上ニ關スル諸規則ヲ解讀シ及筆算ニ差支ナキ者

第二十三條　所轄警察署又ハ分署ニ於テ取締人及副取締人ニ不都合ノ行爲アルカ又ハ不適當ノモノト認メタルトキハ臨時改撰セシムルヿアルヘシ

第二十四條　營業者ハ組合ニ關スル費用幷ニ品觸費用ヲ負擔スヘシ其組合ニ加入セス又ハ費用負擔セサル者ハ營業ヲ爲スコトヲ得ス

第二十五條　取締人品觸費用支拂ノ告示ヲ受ケタルトキハ其告知書到着ノ日ヨリ二十日以內ニ差出スヘシ

第二十六條　取締人ニ於テ品觸書ヲ受ケタルトキハ速カニ組合內ノ營業者ニ配付スヘシ

第二十七條　取締人ニ於テ取扱フ事項左ノ如シ

一諸規則命令ヲ組合營業者ニ通知スル事

二組合營業者ノ看板ニ烙印スル事

三組合營業者ノ願屆ニ加印シ意見アルモノハ其旨添申スル事

四營業者名簿ヲ製シ其營業ノ種類ヲ區別シ增減アル毎ニ之ヲ加除スル事

五組合ニ關スル費用ノ取立支拂及決算報告ニ關スル事

六品觸ニ關スル費用ノ取立支拂決算報告ニ關スル事

七取締人撰擧ニ關スル事

右ノ外規約ヲ以テ定メタル事項

第二十八條　組合規約ニ揭クヘキ事項左ノ如シ

一組合ノ名稱及事務扱所ノ位置

二取締人ノ撰擧及任期ニ關スル事

三組合會議組織ノ事
四組合費用賦課及收支ノ事
五品觸ニ關スル費用賦課及收支ノ事
六副取締人ヲ置クトキハ其分擔事項
七違約者取扱ノ事
右ノ外營業上必要ノ事項

第二十九條　古物商條例ニ明文アルモノヲ除キ本則第六條第七條第八條第九條第十條第十一條第十三條第十四條十五條第十六條第十七條第十九條第二十條ニ違背シタル者ハ刑法第四百廿七條第八項ニ照シ處分スヘシ

附　則

第一　從來免許鑑札ヲ受ケ現ニ營業スル者ハ更ニ出願スルニ及ハス

第二　組合規約ハ九月十五日限リ屆出ツヘシ

第三　看板ハ來ル九月三十日迄書換ヲ猶豫ス

第四　現ニ使用セル帳簿ハ繼續使用スルヲ得

第一號書式

居商ハ
竪曲尺一尺五寸
幅同　五寸
行商ハ
竪曲尺　八寸
幅同　五寸

何組第何號　何郡何町(村)何番地
何々商　氏　名
何々組合
何々商
兼何々商
何々商

支店ナルトキハ氏名ノ下ニ支店ト記ス
家族雇人ナルトキハ營業主ノ氏名幷ニ長男又ハ雇人タルヲ肩書スヘシ
烙印ハ方一寸五分以内

第二號書式

(物品買受讓受明細帳)表紙ニ記スヘシ

何郡何町(村)何番地
賣主(又ハ讓主)　氏　名

（特別取締ニ付セラレタルモノハ）年齢

住所

証人　氏名

第何號

年月日（特別取締ニ付セラレタルモノハ）時

一何々織（縞）男袖　何枚

但表何々裏何々色（表何紋何個付）

此代金何程

一何々帯女物　何筋

但片側何々色（縞）（片付）片側何々

此代金何程

一何々木綿男小兒袷　何枚

但表何々裏何々

此代金何程

〆何點

第三號書式

（物品賣渡讓渡明細帳）表紙ニ記スヘシ

何郡何町（村）何番地

買主（又ハ讓受主）　氏名

第何號

年月日

一、、、　、、、

、、、

、、、

第四號書式

（物品ノ素質摸樣點數代金記載式ハ第二號ニ準スヘシ）

（物品預リ明細帳）表紙ニ記スヘシ

何郡何町（村）何番地
預ケ主　氏　名

何年何月日賣却（保存）（火災難）ノ爲メ預ル
一、、、、、、、、、、、、年月日賣却（返戻）

（物品ノ素質摸樣員數記載方ハ第二號書式ニ準スヘシ）

以上諸帳簿（品觸帳ヲ除ク）表紙ノ側内ニ左ノ通記載シ置クヘシ

明治年月日新調　□紙數　何枚
「警察署又ハ分署印以下同シ」
明治年月日增綴　□紙數　何枚
□合計何枚
明治年月日減綴　□紙數　何枚
□差引何枚

同上帳簿ノ裏面ニ左ノ通記載シ尚ホ綴目ニ檢印ヲ受クヘシ

自明治年月日
至明治年月日
（最終ノ年月日ハ使用ヲ止メタル日ヲ記載スヘシ）

何郡何町（村）何番地
古物商　氏　名

第五號書式

竪曲尺三尺
幅同　七寸

明治年月日午前後時ヨリ
明治年月日午前後時マテ（毎日）
古物商　市場
何取締所
烙印

第六號書式

（市場出品帳）表紙ニ記スヘシ

何郡何町（村）何番地

年月日出品　　出品主　氏　名

一、、、、、、　　、、

、、、、、、　　年月日

、、、、、、　　住所買主(讓受主)　氏　名

(物品ノ素質摸樣點數ノ記載方ハ第二號書式ニ準スヘシ)

○縣令甲第百號　　明治二十二年八月廿四日

明治十七年五月乙第三十八號布達質屋取締條例施行細則別紙之通改正ス

(別紙)

質屋取締條例施行細則

第一條　質屋營業ヲ爲サントスル者ハ住所身分氏名年齡ヲ記シ所轄警察署又ハ分署ニ願出免許鑑札ヲ受クヘシ支店ヲ設ケントスルトキハ前項ノ外尙ホ其場所ノ町村番地ヲ記シ開業五日以前所轄警察署又ハ分署ニ屆出ヘシ

第二條　營業ニ關スル願屆ハ取締人ノ連署ヲ受ケ差出スヘシ

但第十三條第十六條ニ指定スル屆書ハ此限ニアラス

第三條　左ノ各項ニ觸ルヽ者ハ免許ヲ與ヘス

但第四項ニ觸ルヽ者ト雖ドモ悛改ノ狀アリト認メタルトキハ特ニ免許スルヿアルヘシ

一未丁年者ニシテ後見人ナキ者

二白痴瘋癲者及瘖啞者

三營業者禁止停止ヲ受ケタルトキハ其禁止停止中ニ於ケル同居ノ親屬及雇人

四强竊盜及詐欺取財ノ罪又ハ刑法第三百九十九條同第四百一條ノ處斷ヲ受ケタル者

第四條　營業ノ免許ヲ受ケタル者又ハ支店ヲ設ケタル者ハ第一號書式ノ看

板ヲ製シ組合取締人ノ烙印ヲ受ケ店前衆人ノ見易キ場所ニ掲出スヘシ

第五條　免許鑑札ハ他人ニ貸與又ハ讓與スヘカラス

第六條　免許鑑札ヲ失却毀損シタルトキ又ハ轉居改氏名等ニ依リ鑑札面ニ異動ヲ生シタルトキハ五日以内ニ所轄警察署又ハ分署ニ届出再渡又ハ書換ヲ受クヘシ

第七條　廢業シタルトキハ免許鑑札及現存スル質物ノ素質摸樣員數ヲ記載シタル目錄書ヲ添ヘ五日以内ニ所轄警察署又ハ分署ニ届出ツヘシ

但支店ヲ廢シタルトキハ其支店ニ現在スル質物目錄書ヲ添ヘ本文同樣届出ツヘシ

第八條　警察署又ハ分署所轄外ニ轉住セントスルトキハ其運送スヘキ質物ハ前條ニ定ムル目錄書ヲ添ヘ移轉五日以前ニ所轄警察署又ハ分署ニ届出其移轉地ニ到着シタルトキハ五日以内ニ免許鑑札ヲ添ヘ其地所轄警察署又ハ分署ニ届出ツヘシ

第九條　條例第五條ニ依リ官廳市町村學校病院社寺會社ノ印章記號アル物品ヲ質物トスルトキハ證人ノ証明書ヲ取リ置クヘシ

第十條　左ニ記載シタル者ハ証人タルノ効力ナキモノトス

但第三條但書ニ依リ免許ヲ得タルモノハ此限ニアラス

一　未丁年者

二　雇主同居ノ雇人

三　白痴瘋癲者及瘖啞者

四　營業禁止又ハ停止中ノ者

五　强窃盗詐欺取財ノ罪又ハ刑法第三百九十九條同第四百一條處斷ヲ受ケタル者

第十一條　營業者ハ左ノ帳簿ヲ製シ品觸綴帳ヲ除クノ外新調又ハ紙數ヲ增減シタルトキハ其紙數ヲ記載シ所轄警察署又ハ分署ノ檢印ヲ受クヘシ若シ使用上誤書等ニ依リ更ニ記載スル場合ト雖誤書ノ文字ハ其旨ヲ付記シ

字体ヲ存スヘシ

支店ハ別ニ其店舗ニ備置キ前項ニ據リ記載スヘシ

一質物臺帳

此帳簿ハ第二號書式ニ依リ記載スヘシ

二流質物賣拂帳

此帳簿ハ第三號書式ニ依リ記載スヘシ

三物品預帳

此帳簿ハ第四號書式ニ依リ記載スヘシ

四品觸綴帳

此帳簿ニハ品觸書ノ到達シタルトキ年月日時ヲ附記シ順次編綴スヘシ

第十二條　質物ノ流期ニ至ラントスルトキハ營業者ヨリ質入主ニ告知スヘシ

第十三條　條例第八條ニ依リ流質物ヲ賣拂ハントスルトキハ第五號書式ニ

依リ所轄警察署又ハ分署ニ差出スヘシ

第十四條　營業者ハ質入人ノ見易キ場所ニ左ノ各項ヲ記載掲示スヘシ

一質物流期

二利子ノ割合

三質物災難ニ罹リタルトキノ處辨法

第十五條　品觸ニ類似シタル物品及不審ノ擧動アル者ヨリ質入又ハ預入ヲ爲サントスルトキハ警察官吏ニ密告スヘシ

第十六條　條例第六條第十二條ノ屆書ニシテ分署部内ニ係ルモノハ其分署ニ差出スヘシ

第十七條　營業者ハ警察署又ハ分署ノ所轄ヲ一區域トシ組合ヲ設ケ其組合毎ニ規約ヲ定メ且ツ取締人一名ヲ互撰シ所轄警察署又ハ分署ニ屆出認可ヲ受クヘシ

但土地ノ狀況ニ依リ所轄警察署又ハ分署ノ認可ヲ受ケ一組合内ヲ更ニ

數組ニ分チ一組毎ニ副取締人一名ヲ置クヿヲ得其副取締人ノ撰擧及届出方ハ本條ニ據ルヘシ又營業者少數ニシテ一ノ組合ヲナシ難キ事情アルトキハ所轄警察署又ハ分署ノ認可ヲ受ケ最寄組合ニ加入スルヿヲ得

第十八條　左ノ資格ニ適合スル者ニアラサレハ取締人及副取締人タルコトヲ得ス

一年齡滿二十五年以上ニシテ組合區域内ニ相當ノ家屋若クハ土地ヲ所有スル者

二營業上ニ關スル諸規則ヲ解讀シ及筆算ニ差支ナキ者

第十九條　所轄警察署又ハ分署ニ於テ取締人又ハ副取締人ニ不都合ノ行爲アルカ若クハ不適當ノ者ト認メタルトキハ臨時改撰セシムルコトアルヘシ

第二十條　營業者ハ組合ニ關スル費用幷ニ品觸費用ヲ負擔スヘシ其組合ニ加入セス又ハ費用ヲ負擔セサル者ハ營業ヲ爲スコトヲ得ス

第廿一條　取締人品觸費用支拂ノ告知ヲ受ケタルトキハ其告知書到達ノ日ヨリ二十日以内ニ差出スヘシ

第廿二條　取締人ニ於テ品觸書ヲ受ケタルトキハ速ニ組合内ノ營業者ニ配付スヘシ

第廿三條　取締人ニ於テ取扱フヘキ事項左ノ如シ

一諸規則命令ヲ營業者ニ通知スル事

二組合營業者ノ看板ニ烙印スル事

三組合營業者ノ願届ニ加印シ意見アルモノハ其旨添申スル事

四營業者名簿ヲ製シ增減アル毎ニ之ヲ加除スル事

五組合幷ニ品觸ニ關スル費用ノ取立及支拂決算報告ニ關スル事

六取締人撰擧ニ關スル事

右ノ外規約ヲ以テ定メタル事項

第廿四條　組合規約ニ揭クヘキ事項左ノ如シ

一組合ノ名稱及事務取扱所ノ位置
二取締人ノ撰擧及任期ノ事
三組合會議組織ノ事
四質物流期限ノ事
五利子割合ノ事
六質物ノ災難ニ罹リタルトキ處辨法ノ事
七組合幷ニ品觸費用ノ賦課及收支ノ事
八副取締人ヲ置クトキハ其分擔事項ノ事
九違約者取扱ノ事
右ノ外營業上必要ノ事項
第廿五條　質屋取締條例ニ明文アルモノヲ除キ本則第四條第五條第六條第七條第八條第十一條第十四條第十五條ニ違背シタルモノハ刑法第四百二十七條第八項ニ照シ處分スヘシ

附則
第一　從來免許鑑札ヲ受ケ現ニ營業スル者ハ更ニ出願スルニ及ハス
第二　組合規約ハ來ル九月十五日限リ屆出ツヘシ
第三　看板ハ來ル九月三十日迄書換ヲ猶豫ス
第四　現ニ使用セル帳簿ハ繼續使用スルコトヲ得

第一號書式

曲尺
竪一尺五寸
幅　五寸

何組第何號
質屋
何郡何町(村)何番地族籍
屋號
氏名
何々組合
支店ナルトキハ氏名ノ下ニ支店ト記スヘシ
烙印ハ方一寸五分以内

第二號書式

質屋臺帳（表紙ニ記スヘシ）

一番號ハ毎一年ニ號數ヲ止メ翌年ハ更ニ起號スヘシ

二入換品ハ凡例ノ如ク其物品及年月日ヲ記載シ前品目ニハ朱線ヲ施スヘシ

三受戻品及流質物ヲ賣拂タルトキハ凡例ノ如ク記載シ番號品目ニハ朱線ヲ施スヘシ

四質物ノ素質摸樣同一ニシテ數品ヲ合記スルトキハ一品毎ニ其貸金額ヲ區分シテ記載スヘシ但一組一對何人前ト稱スヘキ物品等ハ此ニ限アラス

五質入主ニアラサル者質物ヲ受戻サントスルトキハ代理ノ證ヲ認メ其受戻人ノ住所氏名ヲ記載スヘシ

何郡何町（村）何番地

質入主　氏名印

何年月日質入

第何號

貸金何程也　利子何程

一何色何編何々紋付男小袖　何枚

但紋付ノ内ニ何々何ヶ所裏何色袖口何

△ハ朱書

第何號　△何年月日受戻

貸金何程也　利子何程

一金側片硝子懷中時計　何個

但器械何々國製番號何號附屬品何々

第何號

貸金何程也　利子何程

一何色何々女小袖　何枚

但何紋何ヶ所胴裏　△何年月日入換

何裾何袖口何　△一何縞男羽織壹枚

但胴裏何色海氣

第何號　△何年月日賣拂

貸金何程也　利子何程

一黒塗何寸重箱　何個

但朱塗蒔金箔ニテ何々ノ紋付

金梨地何々ノ蒔繪アリ

第三號書式

流質物賣拂帳（表紙ニ記スヘシ）

何郡何町（村）何番地

買主　氏名

何年月日賣拂

何年第何號

一何色何々紋付男小袖　何枚

價金何程

一、、、、、　、、

〃何品

第四號書式

物品預リ帳（表紙ニ記スヘシ）

何郡何町（村）何番地

預ケ主　氏名

何年月日賣却（保存）（火災難）ノ爲メ預ル

一何色羽二重紋付男小袖　何枚

但、、、　何年月日賣却（返戻）

右帳簿表紙ノ内側ニ左ノ通記載シ置クヘシ

明治年月日新調

明治年月日増綴　□「警察署又ハ分署印以下同シ」紙數　何枚

□合計何枚　□紙數　何枚

明治年月日減綴　□紙數　何枚

□差引何枚

同上帳簿ノ裏面ニ左ノ通記載シ尚ホ綴目ニ檢印ヲ受クヘシ

自明治年月日

至明治年月日　（最終ノ年月日ハ使用ヲ止メタル日記載スヘシ）

何郡何町（村）何番地

質屋　氏　名

第五號書式

流質物賣拂御届

何年月日質入第何號　元質入主何郡何町（村）何番地　氏　名

一何色何々紋付男小袖　何枚

但紋丸ノ中何々何ケ所裏何色袖口何

貸金何程也

同　同

一何色何々女小袖　何枚

但紋何々何ケ所胴裏何裾何袖口何

同　同

同

一金測片硝子懷中時計　何個

但器械何々國製番號何號附屬品同

同　同

同　同

一黑塗何寸重箱　何個

但金梨地何々蒔繪アリ

同　同

〆何品

右ハ流質物ニ付來ル何月何日賣拂候間此段御屆仕候也

何郡何町(村)何番地

年月日　質屋　氏名　印

何警察署(又ハ分署)御中

○縣令甲第百十二號　明治廿二年十月一日

除害銃取締規則左ノ通相定ム

但明治十八年九月乙第百五號威銃規則ハ之ヲ廢止ス

除害銃取締規則

第一條　除害銃トハ動植物ヲ害スル鳥獸ヲ威除シ又ハ銃殺スル爲メ臨時用ユルモノヲ云フ

第二條　除害銃ヲ分チテ左ノ二種トス

第一種　有害ノ鳥獸ヲ威除スル爲メ空砲ヲ放ツモノ

第二種　有害ノ鳥獸ヲ銃殺スルモノ

第三條　除害銃ノ免許ヲ得ントスルモノハ前條ノ種別ヲ爲シ有害鳥獸名

及被害動植物ノ種類ヲ詳記シ其被害場所ノ圖面ヲ添ヘ所轄警察署又ハ分署ヲ經由シ縣廳ヘ願出ツヘシ

但被害ノ場所他人ノ所有地ニ渉ルトキハ其所有者ノ連署ヲ受クヘシ

第四條　前條ノ願出ヲナストキハ左ノ區別ヲ爲スヘシ

一　銃砲ノ種類（和銃ハ玉目）

一　除害銃使用期限（六ケ月以内ニ係ル期限ヲ云フ）

第五條　左ノ各項ニ觸ルヽモノハ免許ヲ與ヘス

一　十六歳未滿ノ者

二　瘋癲白痴ノ者

三　銃砲ノ使用ヲ知ラサル者

第六條　除害銃免狀ハ其期ヲ六ケ月トス期滿ツレハ速ニ返納スヘシ

第七條　除害銃使用中ハ免狀ヲ携帶シ何人ト雖トモ見ンコトヲ求ムルトキハ之ヲ拒ムヘカラス

第八條　日沒ヨリ日出迄ハ發砲スヘカラス

但有害鳥獸ノ種類ニ依リ銃殺ヲ必要トスルトキハ豫テ願出許可ヲ受クヘシ

第九條　除害銃免狀ハ貸與スルコトヲ得ス

第十四條　水火盜難紛遺失等ニ罹リタルトキ及轉居改氏名ニ依リ免狀ニ異動ヲ生シタルトキハ五日以内ニ所轄警察署又ハ分署ヲ經由シ縣廳ニ届出書換又ハ再渡ヲ受クヘシ

第十一條　除害銃ハ免許銃ノ外使用スヘカラス

第十二條　人家又ハ危險ノ虞アル場所ニ於テ濫リニ發砲スヘカラス

第十三條　第三條ニ違犯シタルモノハ五日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ貳拾錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第十四條　第七條第八條第九條第十一條第十二條ニ違背シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五錢以上壹圓以下ノ科料ニ處ス

○縣令甲第百十一號

明治廿二年十月一日

人民ヨリ差出ス願届ハ總テ其町村長ノ連印ヲ要シ來リ候處自今左ニ掲クル諸取締規則中ノ願届ハ町村長ノ連印ヲ要セス

但將來發布スヘキ取締規則中警察署分署ヘ差出シ又ハ警察署分署ヲ經由スヘキ願届ニシテ町村長ノ連印ヲ要スルモノハ其旨規則中ニ明記ス

一火藥取締規則ニ關スル願届

一烟火製造受賣幷ニ打揚取締規則ニ關スル願届

一貸座敷娼妓取締規則ニ關スル願届

一藝妓取締規則ニ關スル届

一藝人取締規則ニ關スル願届

一演藝場及遊觀場取締規則ニ關スル願届

一質物取締條例施行細則ニ關スル願届

一古物取締條例施行細則ニ關スル願届

一印判彫刻師取締規則ニ關スル願届

一宿屋取締規則ニ關スル願届

一雇人請宿取締規則ニ關スル願届

一湯屋取締規則ニ關スル願届

一乘合馬車取締規則ニ關スル願届

一營業人力車取締規則ニ關スル願届

一街路取締規則ニ關スル願届

一摺附木製造取締規則ニ關スル願届

一畜犬取締規則ニ關スル届

一新聞紙發賣轉賣ニ關スル届

一漉入紙製造ニ關スル届

一銃砲取締規則ニ關スル願届

一遺失物置捨物埋藏換易品ニ關スル届

一 鳥獸獵及除害銃ニ關スル願届

監獄之部目次

監獄規則施行細則（參考）……一頁
司獄官吏禮式……二五
司獄官吏禮式心得……二八
看守押丁採用規則……三〇
看守以下勤務心得……四〇
看守休暇規則……四五
押丁休暇ノ件……四六
看守看護歸省出願手續……四七
看守押丁月給日給表……四七
看守押丁出張ノ際日給ノ件……四八
看守押丁旅費支給規則……四八
囚人護送ノ瀛車賃……四九
往復里程計算法……四九
看守押丁被服期限……五〇
雜收入納付証書ノ件……五一

內務省令　第八號
訓令乙第百四十六號
同　號
訓令乙第二百五號
監　第　一　號
第四十八號
監第千百二十六號
監　第　九　號
縣予第四十六號
訓令乙第二百十號
訓令乙第二百九十五號
訓令乙第八百七十六號
訓令乙第四百五十二號
同　號
第　五　號

○內務省令第八號　明治廿二年七月十六日

監獄則施行細則左ノ通相定ム

監獄則施行細則

第一章　規程

第一條　此細則ニ於テ在監人ト稱スルハ囚人懲治人及刑事被告人ヲ云フ

第二條　新ニ入監スル者アルトキハ先ツ之ニ番號ヲ付シ一小房內ニ於テ通身ヲ檢査シ了リテ名籍ニ其要項ヲ詳錄シ仍ホ房內掲示ノ事項ヲ諭示スヘシ

第三條　各監房內ニハ在監人ノ遵守スヘキ事項ヲ掲示シ傍訓ヲ施シ解シ易カラシムヘシ其事項左ノ如シ

一在監人ハ和順ヲ主トシ常ニ教令ヲ謹守スヘシ

一教誨聽聞ノ席ニ就クトキハ愼テ容止ヲ正フスヘシ（刑事被告人ヲ拘禁スル監房ニハ此項ヲ除ク）

一每朝常用ノ諸器具ヲ淸潔ニシテ之ヲ排列シテ點檢ヲ受ケ及席壁厠圊等

監獄第千六號　各監獄會計取扱規程……五一
無號　領置金取扱手續……五五
監獄第六百號　監獄支署ニ於テ服役セシムル囚人ノ件……五七
甲第五號　在監人ニ信書ヲ贈ル件……五七

監第千六號　各監獄會計取扱規程……五一
無號　領置金取扱手續……五五
監第六百號　監獄支署ニ於テ服役セシメタル囚人ノ件……五七
甲第五號　在監人ニ信書ヲ贈ル件……五七

○内務省令第八號　明治廿二年七月十六日

監獄則施行細則左ノ通相定ム

監獄則施行細則

第一章　規程

第一條　此細則ニ於テ在監人ト稱スルハ囚人懲治人及刑事被告人ヲ云フ

第二條　新ニ入監スル者アルトキハ先ツ之ニ番號ヲ付シ一小房内ニ於テ通身ヲ檢査シ了リテ名籍ニ其要項ヲ詳錄シ仍ホ房内掲示ノ事項ヲ説示スヘシ

第三條　各監房内ニハ在監人ノ遵守スヘキ事項ヲ掲示シ傍訓ヲ施シ解シ易カラシムヘシ其事項左ノ如シ

一在監人ハ和順ヲ主トシ常ニ教令ヲ謹守スヘシ

一敎誨聽聞ノ席ニ就クトキハ愼テ容止ヲ正フスヘシ（刑事被告人ヲ拘禁スル監房ニハ此項ヲ除ク）

一毎朝常用ノ諸器具ヲ清潔ニシテ之ヲ排列シテ點檢ヲ受ケ及席壁圃等

ヲ掃除スヘシ

一窓壁若クハ物件ヲ汚損シ不淨器ノ外ヘ唾ハキ及貯水ヲ濫用スヘカラス

一房外ニ出タル時ハ他人ト手ヲ交ヘ又ハ濫リニ交談スヘカラス

一夜間ハ最モ鎮靜ヲ主トシ說話發聲又ハ濫リニ起歩スヘカラス

但シ晝間ト雖モ放歌喧噪又ハ高聲ニ誦讀シ及隣房ヘ通聲交談スヘカラス

一許可ヲ得サル物品ヲ監房ニ署キ或ハ勝負ヲ爭ヒ若クハ賭博類似ノ遊戲ヲナシ他人ニ汚辱ヲ被ラシメ猥褻ニ涉ルカ如キ所爲アルヘカラス

一服役中其作業ニ關セサル他事ヲ談話シ及服役セサル時間タリトモ部外ノ役場ニ至ルヘカラス

一許可ヲ得スシテ物件ヲ受授貸借スヘカラス

一監房ニ於テ異常ノ事アレハ晝夜ニ拘ハラス直ニ看守所ニ通聲スヘシ

一病者アルトキハ同房ノ者共ニ介保シ看病人タル者ハ切實ニ之ヲ看護ス

ヘシ

第四條　領置ノ貨物ハ其名數ヲ簿冊ニ記載シ典獄之ニ証印スヘシ

領置ノ貨物ハ本人釋放又仮出獄免幽閉仮出場ノ時之ヲ下付スヘシ

第五條　領置物品中保存ニ堪ヘ難キモノハ本人ヘ告知ノ上之ヲ賣却シテ其代金ヲ領置スルコトヲ得

第六條　入監中外人ヨリ差入タル貨物ニシテ領置スルモノモ又第四條第五條ノ例ニ依ル

第七條　総テ監房ニ入ル、物品ハ典獄之ヲ點檢シ其危險ノ虞アルモノハ一切之ヲ禁スヘシ

第八條　入監後出房セシメタル者ニ對シテハ還房ノ際通身ノ檢査ヲ爲スヘシ

第九條　通身ノ檢査ハ一人宛之ヲ爲シ他人ヲシテ見セシムヘカラス但服役場教誨堂運動場及浴室等ヨリ一時多人數ヲ還房セシムル場合ハ此限ニ在

ラス

第十條　男子ノ檢身ハ看守長臨監シ看守之ヲ行ヒ女子ニ係ルトキハ看守長臨監シ女監取締之ヲ行フヘシ

第十一條　典獄看守長ハ日夜不時ニ監獄ノ内外ヲ巡視スヘシ但看守長ノ巡視ハ一晝夜三回以上タルヘシ

第十二條　典獄ハ看守及女監取締ノ警守受持場ヲ定メ晝夜絶ヘス之ヲ巡警セシムヘシ

第十三條　典獄ハ看守長及看守女監取締ヲシテ常ニ在監人ノ行狀ヲ錄サシムヘシ但押送中ニ在テハ押送官吏之ヲ錄シテ典獄ニ差出スヘシ

第十四條　看守長ハ毎日二回以上各監房ニ就キ在監人ノ員數ヲ點檢シテ毎日一回以上監房ヲ檢査スヘシ

第十五條　囚人及懲治人ノ放免期日ハ入監後典獄直ニ之ヲ調査シテ名籍簿ニ記入シ仍本人ニ告知スヘシ

第十六條　囚人及懲治人ニシテ釋放スヘキ者アルトキハ典獄名籍簿ニ照シテ其氏名等ヲ問糺シ釋放スル旨ヲ言渡スヘシ刑事被告人ニシテ放免保釋及責付スヘキ者アルトキモ亦同シ

第十七條　領置ノ貨物ヲ下付スルトキハ典獄其名數ヲ領置簿ニ照シテ其旨ヲ記シ受取人ヲシテ証印セシムヘシ

第十八條　刑事被告人ノ中共犯人アルトキハ其監房ヲ別異シ談話通聲スルコトヲ得サラシメ裁判所又ハ他監ニ引致ノトキモ同行セシムルコトヲ得ス

第十九條　在監人ヲ他監ニ移ストキハ其名簿又ハ宣告書其他必要ノ文書及領置ノ貨物ヲ具シテ送致スヘシ

第二十條　在監人押送ノ際送致スル貨物ハ典獄ニ於テ目錄ヲ作リ其貨物並ニ目錄ハ押送官吏ヲシテ保管セシムヘシ但金錢ハ破錠ノ憂ナキ樣嚴緘シ之ニ封印ヲ捺スヘシ

第二十一條　特赦ノアリタル時ハ典獄ハ速ニ其旨ヲ所屬長官ニ申報シ所屬

長官ハ内務大臣ニ申報スヘシ

第二十二條　特赦免幽閉仮出獄ノ申渡ハ其裁可又ハ許可ノ監署ニ達シタル時ヨリ二十四時間以内ニ之ヲ爲スヘシ

仮出獄ノ申渡ヲ受ケタル者ニハ典獄其証票ヲ與ヘテ最近ノ警察署ヘ護送スヘシ

第二十三條　特赦免幽閉仮出獄ヲ申渡シ又ハ賞表ヲ授與スルハ別ニ定ムル方式ニ依ル但賞表ハ免役日若クハ日曜日ニ於テ之ヲ與フヘシ

第二十四條　免幽閉ノ申渡ヲ受ケタル者ハ監獄近傍ノ地ヲ限リ居住セシメ典獄之ヲ監督スヘシ但土地家屋ナキ者ニハ之ヲ貸與スヘシ

己ムヲ得サル事故アリテ一時限外ニ出ンコトヲ請フトキハ典獄其事由ヲ取糺シテ許可スルコトアルヘシ

第二十五條　免幽閉中重罪輕罪ヲ犯シタル者アルトキハ其裁判確定ノ上免幽閉ヲ爲シタル所ノ監獄ニ於テ直ニ其刑ヲ執行スヘシ

第二十六條　免幽閉ノ申渡ヲ受ケタル者其配偶者又ハ其他ノ親属ヲ招キテ同居シ又ハ結婚セント請フトキハ典獄其生計ノ方法ヲ取糺シテ許可スヘシ

第二十七條　仮出獄中重罪輕罪ヲ犯シタル者アルトキハ其裁判確定ノ上現ニ之ヲ管束スル所ノ典獄ニ於テ仮出獄ノ停止ヲ言渡シ証票ヲ取上ケ其旨ヲ所属長官ニ申報シ所属長官ハ内務司法兩大臣ニ申報スヘシ

甲地ニ於テ仮出獄ヲ許サレタル者ヲ乙地ニ於テ停止シタルトキハ乙地典獄ヨリ其取上タル証票ヲ甲地典獄ニ送致シテ其旨ヲ通知スヘシ

前項ニ依リ乙地ニ於テ仮出獄ヲ停止シタルトキハ集治監ニ入ルヘキ者ヲ除クノ外其地監獄ニ拘禁シ前刑後刑トモ乙地ニ於テ之ヲ執行スヘシ

第二十八條　死刑ノ宣告ヲ受ケタル者アルトキハ他ノ者ト別異シ一房ニ一名ヲ拘禁シテ特ニ戒護ヲ嚴ニスヘシ

第二十九條　死刑ノ執行ハ午前十時ヲ過ルヲ得ス其執行中ハ看守ヲシテ嚴ニ刑場ノ門戸ヲ護ラシムヘシ

第三十條　死刑ヲ執行スヘキ者同時ニ二人以上アルトキハ之ニ前後ヲ付シ一人宛執行シ其間他ノ受刑者ヲシテ刑場ニ入ラシムヘカラス

第三十一條　死刑ハ受刑者自衣着用ノ儘之ヲ執行スルコトヲ得

第三十二條　監房ハ看守長ノ立會アルニアラサレハ開扉スルコトヲ得ス但在監人ノ在ラサルトキハ此限ニアラス

第三十三條　囚人ノ監房ニハ疊ヲ敷クコトヲ得ス但病室及拘留囚ノ監房ハ此限ニ在ラス

第三十四條　密室ハ拘留監ニ設クヘシ

闇室ハ暗ニ空氣ヲ通セシメ毫モ光線ヲ通セサラシムルヲ要ス

密室及闇室ハ一人ヲ限リトス

第三十五條　接見室ハ監舍ノ首部ニ設クヘシ

第三十六條　死刑場ハ監獄ノ一隅ニ設ケ墻壁ヲ以テ外見ヲ防クヘシ

第三十七條　各監房ノ鑰匙ハ彼是適用スヘキ爲メ其製式ヲ同クスヘシ

第三十八條　監房ノ鑰匙ハ常ニ一定ノ場所ニ置キ看守長之ヲ監守スヘシ

第三十九條　看守所ニハ闇室ヨリ鐵線ノ類ヲ通架シ置キ發病等ヲ報スルノ用ニ供スヘシ

第四十條　監獄ニハ防火具ヲ備ヘ置クヘシ

第四十一條　燈火ハ監房外ニ置キ在監人之ニ觸ルヽノ虞ナカラシムヘシ

第二章　役法及時限

第四十二條　定役ニ服スヘキ入監人アルトキハ典獄醫師ヲシテ其身體ヲ診視セシメテ強弱ヲ分チ就業簿ニ記入シ其就役スヘキ業名ヲ指定スヘシ

第四十三條　男囚ノ監獄内ノ作業ハ舂米瓦工煉瓦石工石工碎石鍛冶工油絞工耕耘木挽工抄紙工木工桶工藁工炊事掃除ノ内ヲ撰ムヘシ

女囚ノ作業ハ紡績裁縫機織洗濯ノ内ヲ撰ムヘシ

右ノ外各地方ノ便宜ニ依リ他ノ作業ニ服役セシメントスルトキハ内務大臣ノ許可ヲ得ヘシ

第四十四條　男囚ハ碎石開墾採鑛土方石工耕耘運搬若クハ監獄ノ用ニ限リ獄外ノ役ニ服セシムルコトヲ得其外役ニ服セシムルトキハ鍊鐵ノ鎖ヲ用テ二囚毎ニ聯絆シ晴雨ヲ問ハス笠ヲ用テ其面ヲ掩ハシムヘシ

外役ノ囚徒ハ一組十人以上二十人以下ト定メ看守一人押丁二人以上ヲシテ之ヲ監セシム但島地ニシテ逃走ノ慮ナシト認ムル塲合ニ於テハ此割合ヲ變更スルコトヲ得

第四十五條　定役ニ服スヘキ者刑期五分ノ三ヲ經過シタルトキハ典獄ニ於テ現ニ其監獄ニ在ル所ノ作業ノ中ニ就キ出獄後自活ノ道ヲ得ヘキト認ムルモノヲ指定スヘシ但刑期一年未滿ノ者ハ此限ニ在ラス

第四十六條　定役ニ服スヘキ者ハ風雨積雪等ノ爲メ既定ノ作業ニ就ケシメ難キトキト雖モ他ノ作業ニ就テ休役セシムヘカラス

第四十七條　科程ノ了否ハ正午ト罷役前トニ於テ毎日二回之ヲ檢査スヘシ

第四十八條　毎日囚人ヲシテ作業ニ就カシムルニ際シ悉ク之ヲ監房外ニ整列セシメ看守長及看守女監取締點檢ヲナスヘシ還房セシムルトキモ亦同シ

第四十九條　在監人ノ起床ヨリ就寢ニ至ル迄ノ動作時限ハ別表ニ之ヲ定ム但作業ニ依リ己ムヲ得サル塲合ニ於テハ內務大臣ノ認可ヲ得テ其時限ヲ伸縮スルコトヲ得

第五十條　起床還房就役罷役就寢其他ノ動止ヲ令スルハ鈴若クハ柝ヲ以テシ全監一齊ニ動止セシム

第三章　工錢

第五十一條　各種ノ工錢ハ其他普通ノ傭工錢ニ照シ各自ノ技能ト就役時間トニ應シ一日若干ト定ムヘシ

第五十二條　免役日ニ支テ囚人ヲ炊事掃除病者ノ看護其他監獄ノ用ニ使役スルトキハ科程外ノ工錢ヲ與フヘシ

第五十三條　在監人ニ與フヘキ工錢ハ毎月ノ首ニ於テ其前月ノ總計金額ヲ本人ニ示スヘシ

第四章　給與

第五十四條　囚人ノ衣類ハ赭色懲治人ノ衣類並ニ刑事被告人ニ貸與スル衣類ハ淺葱色ニシテ總テ筒袖トシ長短二種ニ分ツ男ノ通常服ハ長衣就役服ハ短衣トシ女服ハ總テ長衣トス

第五十五條　囚人ノ蒲團ハ赭色懲治人及刑事被告人ノ蒲團ハ淺葱色トシ各自ニ貸與シ二人以上合着セシムルコトヲ得ス

第五十六條　刑事被告人ノ着用スル衣類ニシテ時季ニ適セス又ハ汚穢シテ衛生上ニ害アリト認ムルトキハ之ヲ貸與ス

第五十七條　在監人ノ衣類ノ外襟及蒲團ニハ白布ヲ縫着シ之ニ其者ノ番號ヲ墨書スヘシ

第五十八條　在監人ニ貸與スル衣類雜具左ノ如シ

通常服　一草衣　一袷　一綿入　一襦袢

就役服　一草衣　一袷　一綿入　一襦袢　一股引

（婦女ニハ股引ニ代テ前垂ヲ貸與スルコトヲ得）

雜具　一蒲團　一蚊帳　一莞莚　一木枕　一帶（長三尺）

一褌（長三尺）　一手巾　一簑　一笠　一履物

以上ノ貸與品ハ地方ノ便宜ニ依リ之ヲ酖酌取捨シ澣濯補綴シテ其用ニ充ルコトヲ得此他草鞋用紙ハ之ヲ付與ス

極寒ノ地方ニ於テハ內務大臣ノ認可ヲ得テ足袋ヲ貸與スルコトヲ得

第五十九條　病者ニ貸與スル衣類雜具ハ醫師ノ意見ヲ問ヒタル上典獄ニ於テ變更又ハ增減スルコトヲ得

第六十條　病者ノ食量ハ醫師ノ診斷ニ依テ之ヲ增減スヘシ

第六十一條　病者ノ攝養ニ効アル飲食物又ハ溫ヲ取ル湯婆等ヲ用ユルコトヲ要ストキハ醫師ヲシテ其旨ヲ記明セシメ典獄之ヲ考檢シテ許可スルコトアルヘシ

第六十二條　囚人及懲治人作業ニ勉勵シテ食費ヲ償フニ足ルヘキ工錢ヲ得

ル者ニハ其請ニ由リ領置シタル工錢ヲ以テ食物ヲ購ヒ之ヲ給スルコトヲ得其種類分量ハ典獄豫メ制限ヲ設クヘシ

第六十三條　工錢ヲ以テ食物ヲ購給スルハ一月十回以下ニシテ一回金三錢ヲ過クルコトヲ得ス但其購給費ハ領置工錢ノ半額ヲ過クヘカラス

第六十四條　食用器具左ノ如シ

一木椀　一箸　一飯器

第六十五條　監房常置ノ器具左ノ如シ

一貯水器並ニ飲器　木製

一唾壺　木製又ハ竹製

一便器　木製大小二種但監房ニ厠圊ノ接續スルモノニハ此器ヲ用ヒス

一小箒　草ノ種類ヲ用テ製作セシ軟ナルモノ

一洗手盆　木製

第五章　衛生及死亡

第六十六條　監獄ハ常ニ清掃シテ不潔ナラシメサルヲ要ス

監獄内ノ厠圊並ニ便器ハ度數ヲ定メテ掃除シ常ニ清潔ナラシムヘシ

第六十七條　病者ノ居室身體衣類臥具等ハ特ニ清潔ニ爲スヘシ

第六十八條　刑事被告人及定役ニ服セサル囚人ハ毎日一時以内監房外ニ運動ヲ許ス

第六十九條　衣類臥具雜具其他ノ物品ハ種質ニ由リ時々熱湯ヲ用ヒテ之ヲ澣ヒ又ハ大氣ニ晒シ臭氣ヲ去リ虫害ヲ防クヲ要ス但病者ノ物品ト混一シテ之ヲ晒洗スヘカラス

第七十條　入浴ノ定度ハ毎年六月ヨリ九月迄ハ五日毎ニ一次以上十月ヨリ五月迄ハ十日毎ニ一次以上トス

第七十一條　刑事被告人又ハ定役ニ服セサル囚人及拘留囚ノ鬚髮ハ不潔ナラサル樣梳理セシムヘシ但髮髮ヲ剃刈セシコトヲ請フ者アルトキハ典獄之ヲ許可スルコトアルヘシ

第七十二條　髮ヲ短薙セサル者ノ監房ニハ木梳一箇ヲ備ヘ置クヘシ

第七十三條　刑事被告人ノ親屬故舊ヨリ濟濯ノ爲メ其衣類ノ下付ヲ請フトキハ本人ノ承諾ヲ得テ典獄之ヲ許可スルコトアルヘシ其密室監禁者ニ係ルトキハ當該裁判官ノ允許ヲ經ヘキモノトス

第七十四條　傳染病流行ノ兆アルトキハ其豫防ヲ愼密ニスヘシ若シ在監人中傳染病者アルトキハ直ニ離隔室ニ移シ其消毒ヲ嚴ニシ病性及感染ノ形狀ヲ詳悉シ典獄ヨリ所屬長官ニ報告シ且其旨ヲ市町村長及警察署ニ通知スヘシ

第七十五條　傳染病流行ノ際ハ飲食物ノ差入及購給ヲ停止スルコトヲ得

第七十六條　傳染病流行地ヲ發シ若クハ其地方ヲ經過シタル者新ニ入監スルトキハ一週日以上他ノ者ト離隔シ其携有スル物品ハ消毒ヲ行フヘシ

第七十七條　死亡者又ハ刑死者アルトキハ其年月日時ヲ記シ典獄ヨリ親族ニ通知スヘシ

刑事被告人死亡シ又ハ囚人及懲治人ニシテ裁判所ノ訊問中ニ係ル者死亡シタルトキハ之ヲ其裁判所ニ申報スヘシ

第七十八條　在監人病死シタルトキハ醫師ノ診案ニ據リ病症及其因由並死亡ノ年月日時ヲ名籍簿ニ記載スヘシ若シ變死シタルトキハ醫師ノ檢査ニヨリ死亡ノ因由及其年月日場所死狀等ヲ名籍簿ニ詳記スヘシ

第七十九條　死者ノ親族若クハ故舊ニ其遺骸ノ下付ヲ許シタルトキハ其者ヲシテ簿冊ニ署名捺印セシムヘシ

監署ニ於テ遺骸ヲ仮葬スルトキハ棺ニ入テ之ヲ埋メ其上ニ面三寸長三尺五寸ニ過キサル氏名標ヲ建ツヘシ

第八十條　在監人ノ遺骸ハ假葬シタル後ト雖モ下付ヲ請フモノアルトキハ之ヲ許ス

第八十一條　在監人死亡シ監署ニ領置ノ貨物アルトキハ親屬ニ下付スヘシ

刑死者ノ貨物モ亦同シ

親屬遠地ニ在テ物品ヲ送付スルニ入費ヲ要スルモノハ其物品ヲ販賣シテ代價ヲ遞送スルコトヲ得但遞送費ハ親屬ノ自辨トス

第八十二條　仮葬シタル死亡者刑死者ノ遺骸ニシテ滿三箇年ニ至ルモ引取人ナキトキハ更ニ合葬スルコトヲ得但合葬シタルトキハ其墓標ニ石ヲ用ユヘシ

第六章　書信及接見

第八十三條　在監人ヨリ發スル信書ハ書信紙ヲ用ヒシメ典獄之ヲ封緘遞送スルモノトス但郵便税ハ自辨トス

第八十四條　官司ノ訊問ニ由テ發信ヲ用スルニ當リ郵便税ヲ自辨スルコト能ハサルトキハ監獄費ヲ以テ支辨スヘシ

第八十五條　信書ヲ檢閲スルハ先ツ直行順讀シ次ニ逆讀斜讀又ハ横讀シ不正不良ノ文意アルヤ否ヲ詳査スヘシ

第八十六條　在監人ニ接見セント請フ者アルトキハ典獄其氏名身分住所職

業及緣由ヲ詳悉シタル上之ヲ許スモノトス

接見ノ時間ハ三十分時ヲ過クルヲ得ス但死刑ノ執行以前及集治監又ハ仮留監ニ押送以前ニ係ル囚人ニハ特ニ一時間ノ接見ヲ許スコトヲ得

接見ヲ許シタル者若シ接見ヲ請ヒシ旨趣ニ違フ談話ヲ爲シタルカ又ハ姿貌其他形狀等ヲ以テ相通スルノ形跡アルトキハ之ヲ停止スヘシ

接見ノ際ハ在監人男子ニ係ルトキハ看守長看守立會女子ニ係ルトキハ看守長女監取締立會フヘシ

第八十七條　辨護人トノ接見ハ接見室ニ於テノ談話ニテ事實ヲ盡シ難キトキニ限リ訊問所ニ於テ之ヲ爲サシムルコトヲ得

病囚トノ接見ハ危篤ノ際ニ限リ病室ニ於テ之ヲ爲サシムルコトヲ得

第八十八條　在監人接見ノ時限ハ午前八時ヨリ午後四時迄ノ間トス

第七章　差入品

第八十九條　刑事被告人ニ差入ルヘキ飲食物ハ酒及煙草ヲ除キ監獄内ニ於

テ炊烹ヲ要セサルモノニシテ一日三回一人一食ノ量ニ限ル

第九十條　總テ差入品ハ看守長立會看守ニ於テ之ヲ檢査シ毒氣酒氣又ハ包藏物其他通謀ノ媒介トナルモノナキヤ否ヲ精檢スヘシ但飲食物ノ檢査ニハ醫師ヲシテ立會ハシムヘシ

第九十一條　檢査ノ爲メ解縫シタル衣類臥具アルトキハ監獄ニ於テ之ヲ原形ニ復スヘシ

第九十二條　免幽閉ヲ受ケタル者親族故舊ヨリ金錢衣服家具等ノ寄贈ヲ受ケタルトキハ其旨ヲ典獄ニ申告セシムヘシ

第八章　教誨

第九十三條　教誨ハ免役日又ハ日曜日午後又ハ平日罷役後又ハ休役間ニ於テ之ヲ行フヘシ

第九十四條　免役日及日曜日ノ教誨ハ教誨堂ニ於テシ休役間又ハ罷役後ノ教誨ハ被教誨者ノ居所ニ就キ之ヲ爲スモノトス

第九章　賞譽

第九十五條　監獄則ニ依リ賞譽セシ者ニ與フル賞表ニハ曲尺方二寸ノ淺葱色ノ布ヲ用ヒ賞譽セシ毎ニ之ニ與ヘ上衣ノ左袖肩臂間ノ表面ニ縫着スルモノトス

第九十六條　賞表ヲ有スル者ニハ左ノ優遇ヲ爲スモノトス

一第五十八條ニ定メタル衣類雜具ハ成ルヘク良品ヲ貸與ス

二書信ハ一箇月ニ二通二次之ヲ爲スコトヲ許ス

三入浴ハ尋常囚人ニ先キタヽシムルコトアルヘシ

四賞表二箇以上ヲ有スル者ニハ仍ホ作業ノ勞働稍輕キモノヲ課シ且飯米ノ割合ヲ十分ノ五ニ增加ス

五賞表三箇以上ヲ有スル者ニハ仍ホ將來生計ノ爲メ作業ノ變換ヲ請ハシムルコトヲ得

六賞表一箇ヲ得タル者ニハ監獄則第二十八條ニ定メタル外菜ヲ一週ニ一

回其二箇ヲ得タル者ニハ二回其三箇以上ヲ得タル者ニハ三回增給ス但其價ハ一回一錢ニ過クルヿヲ得ス

第九十七條　囚人及懲治人左ニ掲ゲタル所爲アルトキハ金貳拾五錢以下ヲ以テ之ヲ賞與スルヿヲ得但賞表ヲ與フルノ限ニ在ラス

一在監人ノ逃走セントスル者ヲ密告シタルトキ

二人命ヲ救援シ及逃走者ヲ捕得シタルトキ

三監獄ニ係ル水火風災ヲ防禦シタルトキ

第九十八條　刑事被告人ニシテ前條ノ所爲アルトキハ之ヲ錄シテ所屬長官ニ申報シ仍ホ當該裁判官ノ參考ニ供スヘシ

第十章　懲罰

第九十九條　減食受罰者ハ其罰期中別房ニ入レ置クヘシ

第百條　懲罰ヲ受ケタル者ノ居房ハ其罰期終ルモ仍ホ懲罰ヲ受ケタル者ト別異スヘシ但改悛ノ情著シキトキハ合居セシムルヿヲ得

第百一條　犯則者ニシテ事未タ發覺セサル前ニ於テ司獄官吏ニ自首シタルトキハ其懲罰ヲ全免又ハ減輕スルヿヲ得

數犯俱發シタルトキハ一ノ重キニ從ヒ處罰スヘシ

第百二條　懲罰ニ處セラレタル者裁判事件ニテ出廷スルトキハ當日ニ限リ其執行ヲ中止スヘシ但中止中經過セシ日數ハ懲罰期限ニ算入スヘカラス

第百三條　兩脚ニ鈦ヲ施ス者改悛ノ狀顯ハレ其施鈦期限ノ半ヲ經過シタルトキハ一脚ノ鈦ハ免除スルコトヲ得

第百四條　鈦ヲ施シタル者改悛ノ狀最モ顯著ニシテ其施鈦期限ノ四分ノ三ヲ經過シタルトキハ仮ニ其鈦ヲ免除スルコトヲ得

第百五條　仮ニ鈦ヲ免除シタル者其罰期內更ニ懲罰ヲ受クルトキハ直ニ之ヲ復シ其仮免中經過セシ日數ハ施鈦期限ニ算入スヘカラス

第百六條　懲罰ニ處シタル者アルトキハ典獄若クハ看守長時々其動靜ヲ窺察シ敎誨師ヲシテ之ヲ問ハシムヘシ

附則

此細則ニ於テ市町村長トアルモノ市町村制ヲ施行セサル地方ニ於テハ戸長之ニ當ルヘシ

在監人動作時限表

月名／時限	起床	監房掃除並洗飯	就役	午飯	罷役	還房	就寢	服役時間合計
一月	午前六時	一時間	午前七時	十二時ヨリ一時間	午後三時卅分	五時迄	午後八時	七時卅分時間
二月	六時	同	七時	同	四時	五時卅分迄	同	八時間
三月	五時卅分	同	六時卅分	同	四時	六時迄	同	八時卅分時間
四月	五時	同	六時	同	四時卅分	六時卅分迄	九時	九時卅分時間
五月	五時	同	六時	十二時ヨリ一時卅分時間	五時	七時迄	同	同
六月	四時	同	五時	十二時ヨリ一時間	五時卅分	七時卅分迄	同	十時卅分時間
七月	四時	同	五時	同	五時卅分	七時卅分迄	同	同
八月	四時卅分	同	五時卅分	同	五時	七時迄	同	九時卅分時間
九月	五時	同	六時	十二時ヨリ一時卅分時間	四時卅分	六時迄	八時	九時間
十月	五時卅分	同	六時卅分	十二時ヨリ一時間	四時	五時卅分迄	同	八時卅分時間
十一月	六時	同	七時	同	四時	四時卅分迄	同	八時間
十二月	六時卅分	同	七時卅分	同	三時卅分	四時迄	同	七時間

備考

一就役罷役及還房ノ時限ヲ除クノ外ハ囚人ニシテ服役セサル者懲治人及刑事被告人ニモ亦本表ヲ適用ス

一炊事又ハ病者ノ看護ニ從事スル囚人並病者ノ起床及就寢時間ハ本表ニ依ルノ限リニアラス

○訓令乙第百四十六號　明治二十年二月

司獄官吏禮式

第一條　司獄官吏制裝ヲ爲シタルトキハ以下各條ニ從ヒ禮式ヲ行フヘシ

第二條　凡ソ禮式ヲ行フニハ姿制ヲ正シ禮式ヲ受クヘキ人ニ注目スヘシ

第三條　禮式ヲ別ツテ左ノ如シ

一最敬禮

二敬禮

第四條　最敬禮ハ五歩前ニ於テ正面ノ方向ヲ取リテ直立シ兩足ヲ整ヒ兩手ヲ垂下シ首ヲ禮式ヲ受クヘキ人ニ對向シ其人ノ通過シ了ルノ間之ニ注目スヘシ看守副長以上ニ在テハ前項ノ外仍ホ禮式ヲ受クヘキ人ノ正面ニ來リタルトキハ右ノ手ヲ擧ケテ帽ニ當ヘシ

第五條　敬禮ハ禮式ヲ受クヘキ人ニ對シ五歩前ニ於テ左手ヲ垂下シ右手ヲ擧ケ五指ヲ整閉シ其第一關節ヲ帽ノ下端ニ當テ之ニ注目スヘシ

第六條　看守副長以上ハ　天皇三后皇太子及ヒ皇族ニ對シテ最敬禮ヲ行フヘシ

馬上ニ在ルモノハ正面ノ方向ヲ取リ馬ヲ駐メ禮式ヲ行フヘシ道路狹隘ニシテ之ヲ爲シ得ヘカラサルトキハ轡ヲ縮メテ馬首ヲ擧ケ通過ノ際右手ヲ擧

ケ帽ニ當ツヘシ

內閣總理大臣各省大臣正式勅使及所屬ノ知事幷ニ上班ノ司獄官吏ニ對シテ敬禮ヲ行フヘシ

第七條　看守ハ　天皇三后皇太子皇族內閣總理大臣各省大臣正式勅使及所屬ノ知事ニ對シ最敬禮ヲ行ヒ其上班ノ司獄官ニハ敬禮ヲ行フヘシ

第八條　本邦駐在ノ各國公使タルヿヲ認知シタルトキハ看守副長以上ニ在テハ敬禮ヲ行ヒ看守ハ最敬禮ヲ行フヘシ

第九條　物品ヲ携帶シ相當ノ禮ヲ行フ能ハサルトキハ禮式ヲ受クヘキ人ニ行逢ヒタル際之ニ注目シ若シ一手ニ携帶スルトキハ他ノ一手ハ之レヲ垂下スヘシ

帽ヲ冠セサルトキ亦之レニ注目シ兩手ヲ垂下スヘシ

第十條　駐立スル際禮式ヲ受クヘキ人ノ通過スルトキハ正面ノ方向ヲ取リ其儘兩手ヲ垂下シ直立スヘシ若シ椅子ニ倚リタルトキハ起立シテ本文ノ禮式

ヲ行フヘシ

第十一條　同班司獄官ハ互ニ敬禮ヲ行フヘシ

第十二條　囚徒護送其他特別ノ注意ヲ要スヘキ場合ハ禮式ヲ行フノ限リニ非ス

司獄官吏禮式心得

第一　司獄官吏タル者其上官ニ對シ從順ナルヘキハ勿論之ニ對シ禮讓ヲ盡サヽル可カラス上官タルモノ亦言語ハ勿論擧動ニ於テモ決シテ下班ノ者ヲ凌侮シ又ハ之レト押暱スヘカラス

第二　一般ノ官吏ニシテ公務ヲ帶ヒ監獄ヲ巡廻スル等ノ𠀋アルトキハ之ニ對シ相當ノ禮式ヲ行フヘシ

第三　禮式ヲ行フ際ハ決シテ喫煙又ハ談笑等ヲ爲スヘカラス

第四　下班ノ者途上ニ於テ上官ニ出會シ申告ヲ爲サントスルトキハ凡ソ三歩ヲ前ニ進ミ直立シテ申告スヘシ上官若シ歩ヲ止メスシテ進行スルトキハ下

班ノ者ハ其左側ニ副シ同歩シテ申告スヘシ

第五　上官他人ト談話スルトキハ成ルヘク之ヲ妨ケサル樣注意シ此際自ラ申告セント欲スル𠀋アルモ先ツ暫ク差扣ヒ話ノ終ルヲ待テ申告スヘシ

第六　上官ト同歩スル際家屋若シハ室内ニ入ラントスルトキハ下班ノ者其戸ヲ開キ先ツ上官ヲシテ之ニ入ラシムルハ勿論ナリ

第七　看守副長以上ニ在テ官署室内ニ入ルトキハ帽ヲ脫スヘシ

但下班ノ者ノ室内ニ入ルトキハ脫帽セサルモ妨ケナシ

第八　看守帶劍シテ官署室内ニ入ルトキハ帽ヲ脫スヘカラス其劍ヲ帶ヒサルトキハ脫帽スヘシ

第九　室内ニ於テ上官ニ申告ヲ爲ストキハ其三歩前ニ進ミ看守副長以上ニ在テハ劍ヲ左ノ手ニ握シ帽ヲ右ノ手ニ持チ帽ノ裏面ヲ體ニ着ケ徽章ヲ前面ニ向ケ直立スヘシ看守ニ在テハ劍ヲ左手ニ握シ右手ハ垂下スヘシ其劍ヲ帶ヒサルトキハ徐々左回シテ退席スヘシ上官ノ召呼ニ應シタルトキ亦同シ

第十　上官物品ヲ下班ノ者ニ交附スルニ際シテハ其二歩前ニ進ミ右ノ手ヲ以テ之ヲ受クヘシ下班ノ者上官ニ物品ヲ呈スルトキ亦同シ

第十一　途上ニ於テ上官ノ答禮ハ擧手スヘキモノトス下班ノ者ハ仮令上官ノ答禮ナシト雖ヒ決シテ己ヲ輕侮シタルトノ念ヲ懷クヘカラス

第十二　凡ソ禮式ニ上班ト稱スルモノハ監守ノ監守長監守副長以上ニ於ケル監守長監守副長ノ典獄副典獄ニ於ケルカ如シ

○訓令乙第二百二十五號　明治二十年三月

看守押丁採用講習及巡査看守給助

看守押丁採用規則

第一條　看守押丁志願者ハ各書式ニ從ヒ願書誓約書履歴書二通ヲ監獄課ヘ差出サシム

但志願者ハ在籍戸長ヨリ身分証書ヲ請求シ書類ニ相添ヘ差出スヘシ

第二條　志願者ハ本縣下ニ於テ一家ヲ爲ス身元慥カナル者二名ヲ以テ身元引受人ト爲スヘシ

但一名ハ監獄所在地ニ居住スル者ヲ要ス

第三條　看守押丁ハ必ラス試驗ヲ遂ケ採用スルモノトス

第四條　試驗ハ書記看守長二名ニテ之ヲ爲シ其點數ニ依リ合否ヲ定メ試驗表ヲ作ルモノトス

第五條　体格ノ強弱疾病ノ有無ハ獄醫ニ於テ檢査ス

第六條　合格ノ者ト認メタルトキハ試驗官ヨリ課長ニ具申シ不合格ノトキハ書類却下ノ手續ヲ爲スモノトス

但合否共試驗表ヲ製シ課長ニ差出スヘシ

第七條　合格シタル時ハ採用ノ手續ヲ爲ス又試驗官ハ身元引受人ヲ召呼シ保証ノ義務ヲ特ニ承認セシムルコトアルヘシ

第八條　志願者一旦試驗ヲ受ケ合格セサルトキハ滿三ケ月ヲ經過スルニアラサレハ再試驗ヲ許サス

第九條　看守押丁トナル資格ヲ有セサルモノ左ノ如シ

一　徵兵適齡ノ者

二　年齡四十歲以上二十歲以下

但身体强壯ニシテ才能アルモノハ此限ニ非ラス

三　軀幹五尺ニ滿タサルモノ

四　二年以上勤續スル能ハサル者

五　疾病又虛弱ニシテ勤務ニ耐ヘサルモノ

六　本縣下在籍ニシテ確實ナル身元引受人ナキモノ

七　懲戒例又ハ懲罰例ニ依リ免職後二年ヲ經過セサルモノ

八　巡査看守押丁勤務二年未滿ニシテ辭職後一年ヲ經過セサルモノ

但正當ノ理由アリテ辭職シタルモノハ此限ニアラス

九　禁錮以上ノ刑ヲ受ケ又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ其辨償ノ義務ヲ終ヘサルモノ

十　品行方正ナラサルモノ

十一　酒癖アル者又ハ暴行ノ癖アルモノ

第十條　看守試驗科目及ヒ定點並時間左ノ如シ

一　身体檢査

但定點强壯二十點壯十點

二　素讀　監獄則、刑法、治罪法、日本ノ史類但漢文　各十分間

但字數各凡ソ三百字定點各十點一失二點

三　講義　監獄則、刑法、治罪法　各二十分間

但各素讀ノ後ニ於テ講ス定點各十點一失一點

四　作文　記事、論說ノ內一題片仮名交リ　一時間

但定點二十點作法ニ合ハサルモノハ點ヲ與ヘス一失二點

五　寫字　楷、行　二十分間

但字數三十字以下定點各十點一失一點

六　問答　獄務ニ關スル要旨　各三十分間

但二問題ヲ發シ筆答セシム定點十點主意ヲ誤ルモノ點ヲ與ヘス

七　算術　加減乘除　各十分間

但一題定點各十點一失五點

成點二百點其三分ノ二即チ百三十三點以上ヲ以テ合格トス

第十一條　押丁試驗科目及定點並時間左ノ如シ

一　身体檢査

但定點强壯二十點壯十點

二　素讀　監獄則、刑法、治罪法　各十五分間

但字數各凡ソ二百字定點各十點一失一點

三　作文　普通尺牘文　一時間

但定點十點作法ニ合ハサルモノハ點ヲ與ヘス一失二點

四　寫字　楷行草ノ內　二十分間

但字數三十字以下定點十點一失一點

五　問答　獄務ニ關スル要旨　各三十分間

但一問題ヲ發シ筆答セシム定點十點主意ヲ誤ルモノ點ヲ與ヘス一失三點

六　算術　加減乘除ノ內二題　各十分間

但一題定點十點一失三點

成點百點其三分ノ二即チ六十六點以上ヲ以テ合格トス

第十二條　問題ハ課長ヨリ封緘シテ當日試驗官ニ渡スモノトス

但試驗官二名立會破緘ス

第十三條　第一條ニ在ル書式ハ左ノ如シ

（但用紙美濃紙）

監守志願書式

看守志願書

私儀

今般看守奉職志願ニ候間御試驗ノ上御採用被成下度然ル上ハ別紙誓約條目ノ旨趣確守可致ハ勿論該條目第三條ノ場合及ヒ合宿賄料等本人若シ即時辨償不相成時ハ身元引受人辨償可致其他本人不都合ノ所爲有之時ハ何事ニ拘ラス身元引受人一同ニ於テ一切負擔可仕依テ連署ノ上此段奉願候也

何府縣國郡(區)町(村)番地士族(平民)戸主
誰何男又ハ養子附籍
當時何府縣國郡(區)町(村)番地士族(平民)
戸主誰方寄留又ハ同居
志願人　姓　名　印
何年何月何日生
何府縣國郡(區)町(村)番地士族(平民)

福島縣知事宛

身元引受人　姓　名　印
、、、、、、、、、、、、
、、、、、、、　姓　名　印

看守誓約書式

誓約條目

第一條　諸規則及上官ノ指揮ヲ遵守スル事

第二條　奉職二ケ年未滿ニシテ辭職セサル事
但疾病等ニテ勤務難相成節ハ獄醫ノ診斷証ヲ以テ出願スル事

第三條　二ケ年未滿ニシテ辭職又ハ免職ノ時ハ被服及附屬品ノ代價還納スル事

第四條　公務ノ傍法律規則及武技ヲ講習スル事

第五條　濫ニ負債ヲ爲スヘカラサル事

第六條　飲酒ニ耽リ又ハ遊惰ノ所爲ナキ事

第七條　在監人ノ爲メ音信贈物ノ媒介等致サヽル事

右ノ條々必ラス違背セサル事ヲ誓約ス

年　月　日　　（肩書志願書ニ同シ）

押丁志願書式　　姓　名　印

押丁志願書　　私儀

今般押丁志願ニ候間御試驗ノ上御採用被成下度然ル上ハ別紙誓約條目ノ旨趣確守可致ハ勿論該條目第三條ノ場合及ヒ合宿賄料等本人即時辨償不相成時ハ身元引受人辨償可致其他本人不都合ノ所爲有之時ハ何事ニ拘ラス身元引受人一同ニ於テ一切負擔可仕依テ連署ノ上此段奉願候也

追テ引受人ノ内事故アルトキハ更ニ引受人相立可申候

福島縣典獄宛　　（肩書志願書ト同一ニ付略ス）

押丁誓約書式

誓約條目

第一條　諸規則及上官ノ指揮ヲ遵守スル事

第二條　奉職一ヶ年未滿ニシテ辭職セサル事

但疾病等ニテ勤務難相成節ハ獄醫ノ診斷証ヲ以テ出願スル事

第三條　一ヶ年未滿ニシテ辭職又ハ免職ノ時ハ被服及附屬品ノ代價還納スル事

第四條　公務ノ傍法律規則及武技ヲ講習スル事

第五條　濫リニ負債ヲ爲スヘカラサル事

第六條　飲酒ニ耽リ又ハ遊惰ノ所爲ナキ事

第七條　在監人ノ爲メ音信贈物ノ媒介等致サヽル事

右ノ條々必ラス違背セサル事ヲ誓約ス

（肩書前ニ同シ）

姓　名　印

履歴書式

履歴書

何府縣國郡（區）町（村）番地士族（平民）戸主

誰何男又ハ養子附籍

姓　名

某年某月生

舊名朱書

（履歴書式ハ巡査採用規則ト同一ニ付略ス）

○監第一號　明治十八年一月

看守以下勤務心得

第一條　監獄ヲ戒護シ脫監逃走及獄則違犯ヲ警邏豫防スルヲ以テ本務トス

又囚徒ヲ率ヒテ改過還善ノ途ニ就カシムルヲ要ス

第二條　看守長ノ指揮ヲ受ケ晝夜交番受持場ヲ巡警シ監門ヲ守リ監房ノ開閉ヲ管掌シ在監人ノ動靜ヲ視察シ若シ異狀アラハ速カニ看守長ニ報告スヘシ

第三條　獄舍墻壁及監中ノ器具ヲ檢査シ毀壞欠損アラハ速カニ之ヲ看守長ニ申告スヘシ

第四條　夜間ノ巡行ハ殊更靴聲ヲ低クシ監內ノ摸樣ニ注意スヘシ

第五條　戒護上ノ事ハ凡テ看守長ノ指揮ニ出ルト雖ヒ文書會計工業上ニ付テハ其主任者ノ指揮ニ從フヘシ

第六條　押丁等ヲシテ常ニ囚徒ト相狃ルヽ狀ナカラシメ且ツ其勤惰ヲ視察シ之ヲ看守長ニ具申スヘシ

第七條　押丁其他傭人ヨリ申請スルヿハ之ヲ看守長ニ申告シ其指揮ニ從ヒ

處分スヘシ

第八條　新ニ入監スル者アルトキ及囚徒監房出入ノ際ハ身体衣服ノ搜檢ニ立會ヒ利器其他危險ノ物品ヲ夾帶セシメサル樣嚴密ニ注意スヘシ

第九條　囚徒護送ノ時ハ途上勉メテ人民ニ妨害ヲ加ヘ又囚徒ヲシテ路人ニ接シ聲語スル等ノコトナカラシムルヲ要ス

第十條　服役囚徒工業ヲ督勵シ其科程ヲ驗視シ若シ怠役スル者アレハ成ル可ク懇諭ヲ加ヘ猶倫懶ナル者ハ看守長ニ申告スヘシ

第十一條　朝夕工業器械ヲ出納シ破損又ハ不足ノ有無ヲ檢査スヘシ

第十二條　在監人發病シタルトキハ醫員ニ報シ其治療ニ立會ヒ若シ重病ニ罹リ又ハ死亡シタルトキハ速ニ之ヲ看守長ニ申告スヘシ

第十三條　獄則違犯其他犯罪アルコトヲ認知シタル時ハ直ニ取押ヘ証據物ヲ取纏メ看守長ニ申告スヘシ

第十四條　脫越其他非常ノ事變アルトキハ速ニ呼子笛ヲ以テ通報ヲナスヘシ

第十五條　水火風震等アルトキハ四圍ノ警戒ヲ嚴ニシ速ニ在監人避災ノ準備ヲナシ典獄若クハ看守長ノ指揮ヲ待ツテ緩急處置スヘシ

但事急劇ニ出テ止ヲ得サル場合ニ於テハ直チニ臨機處置スルヿヲ得

第十六條　非常ノ事變アルトキハ非番ノ者タリトモ速ニ出勤シ典獄若クハ看守長ノ指揮ヲ受ケ進退スヘシ

第十七條　文字ヲ書スル能ハサル囚徒ノ申請ニ依リ願訴ノ書面ヲ代書シ其最尾ニ代書シタル旨ヲ記載シ署名捺印スヘシ

第十八條　在監人ニ對スルニハ温和公平ヲ旨トシ苟モ過激ノ處遇ヲナスヘカラス

第十九條　職務ニ關スル事件ハ逐一手帖ニ記シ看守長ニ申告スヘシ

第二十條　在監人ノ氏名年齡容貌及其職業其人トナリニ至ルマテ豫テ記臆スヘシ

第廿一條　囚徒役業ノ勤惰行狀ノ良否悔悟ノ狀況ヲ視察シ行狀採錄ノ資料

トナスヘシ

第廿二條　漫リニ在監人ト談言シ又ハ其聽得ヘキ所ニ於テ撿束上ノコトヲ辨論シ若クハ雜話等ヲナス可ラス

第廿三條　職務上機密ノ事ハ勿論緊要ナル事件ハ決シテ他言スヘカラス特ニ在監人ニ洩レサル樣注意スヘシ

第廿四條　私事ニ在監人ヲ使役シ又ハ在監人ノ囑托ヲ受クルヲ得ス

第廿五條　平素起居身体ヲ愼ミ威儀ヲ守リ囚徒ノ標準トナルヲ勉メ苟モ囚徒ノ侮慢ヲ招クカ如キコトアルヘカラス

第廿六條　出勤ノ節ハ制帽制服ニシテ帶劍スルハ勿論職務上必用ノ物品ヲ携帶シ看守長ノ點撿ヲ受クヘシ

但典獄又ハ看守長ノ特命ヲ受クルトキハ此限ニアラス

第廿七條　制服ヲ着シタル時ハ手傘ヲ用ユルヲ得ス

第廿八條　服務中ノ外制服其他徽章アル提灯等ヲ用ユルヲ得ス

第廿九條　奉職中金員貸借上ノ保証人トナルヲ得ス

第三十條　平素定マリタル宿所外ニ宿泊スルヲ得ス若シ止ムヲ得サルコアルトキハ看守長ノ許可ヲ受クヘシ

第卅一條　非番他行ノ節ハ必ラス其行先ヲ申置クヘシ

第卅二條　職務上ニ付キ意見アレハ書面又ハ口述ヲ以テ典獄若クハ看守長ニ開陳スルコトヲ得

第卅三條　凡テ法規慣例ナキモノハ看守長ノ指揮ヲ請フヘシ

○第四十八號　明治十八年八月

看守休暇規則

第一條　滿一ケ年以上勤續ノ者ニハ左ノ割合ヲ以テ休暇ヲ賜フ

一壹ケ年間皆勤ノ者　三週間

一半ケ年間皆勤ノ者　一週間

第二條　休暇ハ看守長ニ於テ勤務ノ都合ヲ以テ典獄ニ具申シ差閊ナキ樣賜

與スヘシ

但數年ニ通算シテ一時ニ併與スルヿヲ得ス

第三條　左ノ各項ニ依リ欠勤スル者ハ欠勤ノ部ニ算入セス

一職務上傷痍ヲ受ケ治療日數中ノ日數

一實養父母祭日

一非番

第四條　休暇中旅行スル者ハ其旨屆出ヘシ

但旅行中變災ニ罹リ日限歸署シ能ハサル者ハ其証票ヲ持參スヘシ

第五條　休暇中ト雖モ公務ノ都合ニ依リ臨時出勤ヲ命スルコトアルヘシ

○監第一一二六號

今般第四十八號ヲ以テ看守休暇規則改正候ニ付テハ押丁休暇ノ義モ前達ヲ取消シ更ニ改正規則ニ準據スヘシ此旨相達候事

○監第九號　明治十五年六月

看守看護歸省出願手續

第一條　父母病氣ニ罹リ看護歸省出願セント欲スルモノハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ願出ヘシ

但看護歸省ハ往復ヲ除キ一週間ヲ以テ一期トス

第二條　前條ノ場合ニ於テ歸省中尚又追願セント欲スルモノハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ更ニ願出ツヘシ

第三條　電信ヲ以テ父母病氣ノ趣申來リタルトキハ此規則ニ據ル限ニアラス

○縣子第四十六號　明治十四年五月

福島縣監獄看守押丁月給日給表

看守月給

金拾圓	金九圓	金八圓	金七圓	金六圓

押丁日給

金廿五錢	金廿貳錢	金貳拾錢	金拾八錢	金拾六錢

○訓令乙第二百十號　明治十九年十月

各外役場出張看守押丁日當ノ義ハ本年七月一日ヨリ金拾錢支給スヘシ

○訓令乙第二百九十五號　明治二十年三月　監獄課

看守押丁旅費支給規則別紙之通相定明治二十年度ヨリ施行ス

但監獄傭員旅費ハ看守ノ例ニ據ル

第一條　外役囚取締トシテ出張ノ看守押丁ノ旅費ハ左ノ條項ニ依ル

第二條　往復三里未滿ノ旅行ハ一里毎ニ左ノ車馬賃及雜費ヲ支給スヘシ

第一項　看守車馬賃　金三錢

第二項　押丁雜費　金貳錢

第三條　往復三里以上六里未滿ノ旅行ニハ一里毎ニ左ノ車馬賃及雜費ヲ支給スヘシ

第一項　看守車馬賃　金三錢五厘

第二項　押丁雜費　金貳錢五厘

第四條　外役場往復六里以上十二里未滿ノ日當ハ一日金拾五錢ヲ支給スヘシ

第五條　外役場滯留日當ハ一日金拾錢ヲ支給スヘシ

第六條　前各條ヲ除クノ外總テ內務省令第十一號警察官吏其他內國旅費概則ニ依ル

○訓令乙第八百七十八號　明治二十年十月

巡査看守囚人護送ノ爲メ漁車ニテ旅行スル漁車賃ハ往復共一哩ニ付金三錢ヲ支給ス

○訓令乙第四百五十二號　明治二十年五月

一往復六里未滿ハ元標ニ拘ハラス總テ出發地ヨリ到着地マテノ里程ヲ計算スヘシ

一往復六里以上ハ總テ出發地元標ヨリ到着地元標マテノ里程ヲ計算スヘシ

一服役區內奔走ノ里程ハ總テ計算セサルモノトス

看守被服期限

種類	期限	始	終
冬上衣	八ケ月	十月十五日	六月十四日
同袴	八ケ月	同	同
同莫大小肌着上下	四ケ月	同	同
夏上衣	四ケ月	六月十五日	十月十四日
同袴	四ケ月	同	同
金巾肌着	二ケ月	同	同
帽日覆	四ケ月	同	同
同雨覆合羽	四ケ月	同	同

押丁被服期限

種類	期限	始	終
冬上衣	八ケ月	十月十五日	六月十四日
同袴	八ケ月	同	同
同莫大小肌着上下	八ケ月	同	同
夏上衣	四ケ月	六月十五日	十月十四日
同袴	四ケ月	同	同
金巾肌着	二ケ月	同	同

○第五號　明治十九年一月　監獄署

其署地方税中雜収入納付証書式左ノ通相定候條右ニ準シ其月分取纒メ翌月五日限リ納付スヘシ此旨相達候事

但納付未濟ノ分ハ此際取纒メ皆納スヘシ

（納付証略ス）

○監第千六號　明治十七年九月

各監獄會計取扱規程

第一條　出納ヲ分チ常務掌貨計算用度ノ四部トス

第二條　金錢出納時間ハ出頭時間ヨリ退署時間迄トス

但臨時至急ヲ要スルトキハ此限リニアラス

第三條　金錢ハ總テ爲換方ヘ相預ケ現金一切取扱ハサルモノトス

第四條　爲換方預金取扱ハ別ニ設クル處ノ條約規則ニ準據スルモノトス

第五條　爲換方預ケ金抵當ハ公債証書ニ限ル價格ハ其地ノ賣買相場ヲ以テ積算差出サシムヘシ

第六條　金錢出納ノ証書ハ署長檢印シ署長不在ナルトキハ代理者檢印スルモノトス

但署長若クハ代理者檢印ナキモノハ一切收支セサルモノトス

第七條　金錢出納上過誤失策ハ主任ハ勿論署長其責ヲ負フモノトス

第八條　金錢出納取扱科目ハ計算表ニ掲クル科目ニ準據スヘシ

但新ニ科目ヲ設ケ又ハ廢捨スルトキハ本署ノ承認ヲ得ヘシ

第九條　出納諸帳簿ハ左ニ記載ノ簿冊ヲ設クヘシ

但別ニ補助簿等ヲ設クル時ハ本署ヘ屆出ヘシ若シ出納諸帳簿上誤テ書損セシトキハ二線ヲ架シ訂正シ塗紙等爲スヘカラス

常務

第十條　常務ハ總テ出納上一切上申伺其他往復等ノ文案ヲ起草スル事

第十一條　毎年度經費豫算ヲ調製シ及ヒ出納上一切ノ經費ヲ負擔スル事

第十二條　爲換方ニ關スル事務ヲ主管スル事

第十三條　出納上一切ノ証書ヲ檢査スル事

第十四條　現金ノ出納ヲ明瞭ニスル事

第十五條　爲換方ノ抵當品ヲ主管スル事

第十六條　支拂切符ヲ振出シ並ニ爲換方預金精算ヲ主管スル事

計算

第十七條　出納收支ノ式ニ據リ簿册ニ登記シ金錢出入ヲ明瞭ニスル事

第十八條　經費金勘定帳ヲ調製スル事

第十九條　計算表ヲ調製スル事

第二十條　金錢收支ノ証書ヲ保存スル事

現金受拂簿

原簿

豫算簿

補助簿

經費勘定帳

仮出金口別帳

繰合金口別帳

食料口別帳

各地送遣金口別帳

雜種必需品口別帳

工藝場口別帳

雜收口別帳

臨時寄托口別帳

計算帳

第廿一條　署中一切ノ物品ヲ管理シ及ヒ受拂ヲ明瞭ニスル事

第廿二條　看守押丁及囚人被服等ノ事ヲ主管スル事

第廿三條　囚人食料ノ事

第廿四條　用度上一切ノ諸帳簿ヲ設ケ物品ヲ受拂其他精算ヲ爲ス事

第廿五條　不用物品賣却ノ事

明治二十年九月決

領置金取扱手續

第一條　新ニ入監スル者ノ所持金ノ交付ヲ受ケタルトキハ該交付証ニ據リ其金額ヲ口別簿ト預証ヘ記載シ押印ノ上預証ハ本人ニ下付ス

但預証ニハ一葉毎ニ割印ヲナスモノトス

第二條　未決監ヨリ已決監ニ移ル者アルトキ處務順序第廿四條第五項ニ據リ回議ヲ受クレハ預証ヲ引上ケ該証ニ刑名ヲ記入シテ下付ス

第三條　給與工錢及科程外工錢ノ報告ヲ受クレハ口別簿ト預証ヘ其金額ヲ記載シ本人ヘ示シタル上之ヲ下付ス

第四條　在監人ノ需用品購求方及ヒ書信ヲ發遣セントスルトキ處務順序第廿三條第三項第四項ニ據リ許可シタルモノハ其都度口別帳ト預証ヘ該金額ヲ記載ス

但需用品ノ購求ハ食費ヲ賠フヤ否ヲ調査ス

第五條　未決者放免其他出監ノ通知ヲ受クレハ口別簿ヲ調査シ領置金アル者ハ會計課ヘ其金額ヲ請求シ預証ヲ引上ケ該証末葉ヘ拇印ヲ徵シ現金ヲ下付ス

但出務時間後ハ當直者ニ於テ本條ノ手續ヲナスモノトス

第六條　已決ノ四從放免ノトキ處務順序第廿四條第九項ノ回議ヲ受クレハ預証ヲ引上ケ該証ト口別簿ヲ調査シ前條ノ取扱ヲナス

第七條　在監人死亡又ハ逃走ノ通知ヲ受クレハ領置金ノ有無ヲ取調領置金アルモノハ本籍地ノ戸長ヘ照會シテ還付又ハ沒收ノ手續ヲナス

第八條　領置金渡濟ノ預証ハ一ケ月ヲ取纒メ之ヲ保存ス

監獄支署

○監第六百號　　明治十八年五月

自今其署ニ於テ服役セシムル囚人ハ該地裁判所ニ於テ處斷セシ刑期一年以下ノ者ト可相心得其他ハ總テ監獄本署ヘ送付スヘシ此旨相達候事

但各々抵觸スル從前ノ達ハ相廢候事

○縣甲第五號　　明治十五年一月十三日

在監人ニ其親屬故舊若クハ辨護人ヨリ無止事故アルカ或ハ遷善論示ノ爲メ信書ヲ贈ラントヲ請フモノハ本人所在ノ監獄本支署宛可差出此旨布達候事

衛生之部目次

縣令甲第六十一號　福島病院規則……一
訓令甲第九十九號　福島病院醫管內巡回規則……二六
訓令甲第百四十六號　巡回醫ニ關スル費用ノ件……二八
乙第二十四號　公私立病院設置規則……二八
乙第四十六號　開業醫組合規則……三二
乙第八十七號　醫師營業取締規則……三四
訓令甲第二號　內務省ニ於テ醫籍刊行ニ付屆出ノ件……三八
訓令甲第百四十九號　郡醫及町村醫設置準則……三八
縣令甲第六十五號　獸醫講習所設置……四〇
訓令甲第三十九號　檢梅醫委托心得……四一
訓令甲第二十四號　娼妓梅毒檢查規則……四三
縣令甲第二十五號　福島驅梅院規則……四七
縣令甲第二十六號　娼妓梅毒檢查定日幷治療所區劃……五二
乙第百三十一號　種痘細則……五四
戊第六十號　種痘施術心得書……五七

訓令甲第百九十號　牛痘苗配布方廢止……六五
縣令甲第百四號　產婆養生假規則……六五
縣令甲第一號　產婆ノ術ハ育八男子ニテ成ラサル件……六七
縣令甲第六十七號　町村衛生組合規則……七六
乙縣四十七號　墓地及埋葬取締細則諸屆手續……六九
丁第二十六號　埋葬認許証雛形……八〇
乙第九十二號　死者ノ遺言ニ依テ舊墓地ヘ合葬ノ件……八〇
縣令甲第百三號　產婆營業取締規則……八一
乙第四十八號　入々抜口中療治接骨營業取締規則……八四
乙第四十九號　針灸治營業取締規則……八七
乙第九十九號　牛乳搾取及販賣取締規則……九一
乙第十二號　飲料水取締規則……九三
乙第二十一號　飲食物及玩弄品着色使用品ノ件……九五
告諭第三號　飲食物ノ注意……一〇二
縣令甲第七號　假開業獸醫免許手續……一〇二
訓令甲第十五號　獸醫假開業出願書調書……一〇五
縣令甲第七十六號　獸類屠殺場幷獸肉販賣取締規則……一〇七

訓令甲第二百九十九號　同上販賣免許証雛形……一一二
訓令甲第三百三十五號　獸類屠殺數報告書式……一一四
縣令甲第八十八號　凍氷營業取締規則……一一五
縣令甲第八十九號　積雪販賣停止……一二〇
告諭第三號　凍氷製造及貯造方法等心得……一二〇
甲第百二十一號　藥湯營業看板雛形……一三一
甲第三十六號　藥品取扱規則中繪具染料等賣買心得……一三一
甲第三十號　賣藥營業手續及書式雛形……一三八
甲第十一號　賣藥營業者轉籍鑑札書替幷廢業屆……一四六
甲第二十四號　賣藥營業者發賣禁止藥品納付ノ件……一五一
己第八號　賣藥請賣營業者注意ノ件……一五一
甲第九十七號　藥舖營業者取締及試驗規則……一五二
甲第百十八號　免許藥舖及ヒ藥種商看板……一五九
甲第八十號　藥舖藥種商行商ノ件……一六〇
乙第七十五號　內務省無免狀者藥品販賣心得……一六〇
縣令甲第百二十號　藥舖ニ關スル件……一六〇
縣令甲第六十六號　賣藥行商鑑札書式……一六一

訓令甲第三百十四號　賣藥請賣行商ニ關スル件……一六二
縣令甲第七十七號　劇藥類販賣ニ關スル件……一六二
甲第百三十五號　家傳妙法ト唱ヒ自製ノ合藥施與ナラサル件……一六三
甲第百十六號　家畜類治病藥劑販賣ニ關スル件……一六三
乙第百八號　雜藥販賣取締規則……一六四
訓令甲第百三十號　雜藥請賣行商免許鑑札雛形……一六九
訓令甲第三百一號　賣藥及雜藥請賣行商表……一七一
乙第百三十四號　製藥者免許手續……一七二
縣令甲第六十五號　賣藥檢査願其他指令書ニ關スル件……一七四
告示第二百三十號　賣藥諸鑑札ニ關スル件……一七五
訓令甲第九十四號　衛生表調整書式……一七六
番外　傳染病豫防心得書……一八五
乙第八十六號　檢疫委員設置事務取扱心得……二六九
訓令甲第七號　檢疫委員規則……二七四
訓令甲第八十四號　傳染病豫防費區分……二七二
訓令甲第三百七七號　虎列刺病豫防消毒心得……二七六
乙第三十號　傳染病及中毒患者報告取扱手續……三〇八

訓令甲第百八十四號　同上追加……三一五
丙第五十八號　虎列刺病豫防規則……三一五
訓令甲第四十七號　醫師派遣規則……三一七
戊第四十四號　傳染病死体埋葬時間……三一八
訓令甲第六十九號　天然痘豫防檢疫ニ關スル件……三一八
訓令甲第九十五號　陸軍々隊虎列拉流行地ヨリ行軍ノ件……三一九
番外　銅器ヲ用ヒテ食物調理方注意……三一九
縣令甲第五十九號　清潔法施行ノ件……三一九
告諭第一號　毒うつぎ玩弄ニ關スル注意……三二〇
番外　下水溝渠掃除方注意……三二一
番外　衛生通信規則ニ附帶スル注意……三二二

○縣令甲第六十一號　明治二十年三月三十一日

福島病院規則左ノ通改正シ本年四月一日ヨリ施行ス

福島病院規則

職制及事務章程

俸給例

第一章　通則

第二章　醫局

第三章　藥局

第四章　庶務局

第五章　病室規則

第六章　宿直

第七章　入院患者心得

第八章　看護婦心得

福島病院職制及事務章程

院長

内外患者ノ診斷治療ヲ掌リ院務ヲ統理ス

藥局長以下諸職員ノ勤惰ヲ監査シ其進退ヲ知事ニ具狀スルヲ得

院中職員ノ分掌ヲ命スルヲ得

看護人小使等ノ進退ヲ專行スルヲ得

副院長

職務院長ニ亞ク

藥局長

藥局一切ノ事務ヲ管理シ調藥製藥及藥物試驗ノ事ヲ掌ル

醫　定員ナシ

患者診斷治療ヲ分擔ス

藥劑掛　定員ナシ

藥劑配合ノ事ヲ分擔ス

庶務掛　定員ナシ

庶務及會計ノ事ヲ擔任ス

醫補　定員ナシ

院長又ハ醫員ノ指揮ニ從ヒ診斷治療ヲ補助ス

藥劑掛補　定員ナシ

藥局長又ハ藥劑掛ノ指揮ニ從ヒ藥劑配合ノ事ヲ補助ス

事務章程

院內ノ事務知事ニ稟請スヘキモノト專決施行スヘキモノトヲ分チテ上下兩欵トス其目左ノ如シ

上欵

一規則方法ヲ創立シ又ハ變革釐正スル事

一醫員藥劑生及筆算生ヲ臨時使用スル事

一藥價額及入院料ヲ增減スル事
一金額五圓以上ニ渉ル修繕又ハ貳拾圓以上ノ物品購求ノ事
一不用物品ヲ賣却スル事
一金錢保險ノ事
一死体解剖ノ事
一諸職員ノ除服ヲ取計フ事
一貧患者入院施療ノ事
以上知事ニ稟請シ許可ヲ得テ後チ施行スヘシ
下欵
一常用經費ヲ支出スル事
一醫員往診ノ事
一患者入院願ノ事
一二週間以内諸職員ノ病氣引籠ヲ聞届ル事

一諸表諸調書ヲ調製進達スル事
一書類帳簿等保存ノ方法ヲ設クル事
一金額五圓未滿ノ小破修繕又ハ貳拾圓未滿ノ物品購求ノ事
一藥價等ヲ收入スル事
一看護人小使等進退ノ事
以上專決ノ後チ知事ニ開申スヘシ但規則アルモノハ其規則ニ從フヘシ

福島病院職員俸給例

院長	副院長	藥局長	醫	庶務掛	藥劑掛	醫藥劑掛補
貳百圓以下	百五拾圓以下	六拾圓以下	三拾圓以下	廿五圓以下	拾圓以下	
百圓以上	七拾圓以上	三拾圓以上	八圓以上	拾貳圓以上	六圓以上	
		六拾圓以下	三拾圓以下	廿五圓以下	拾圓以下	補
		拾貳圓以上	拾貳圓以上	拾貳圓以上	六圓以上	

第一章　通則

第一業　本院ハ汎ク衆庶ノ請求ニ應シ諸般ノ疾病ヲ治療シ兼テ管内醫事ニ關シ每ニ摸範タルノ責ニ任ス

第二條　本院内ヲ區別シテ醫局藥局庶務局ノ三局トス

第三條　醫局ハ診察掛往診掛書籍掛器械掛ノ三掛トシ醫員之ヲ擔任ス

第四條　藥局ハ藥劑掛ノ一掛トシ藥局長以下藥劑掛之ヲ擔任ス

第五條　庶務局ハ庶務掛ノ一掛トシ庶務掛之ヲ擔任ス

第六條　施治患者ハ疾病ノ狀況ト本人ノ情願ニ依リ入院又ハ通院セシムヘシ

但時宜ニヨリ入院ヲ許サヽルヿアルヘシ

第七條　貧困患者ニシテ費用自辨スル能ハス戸長ノ添書ヲ以テ施療ヲ願出ツルトキハ之ヲ許可スルヿアルヘシ

但時宜ニ依リ入院施療ヲ許スヿアルヘシ

第八條　諸職員昇降及退院ノ時限ハ日ノ長短ニ從ヒ院長之ヲ定メ其都度縣廳ニ開申スヘシ

第九條　各局ニ宿直ヲ置キ以テ臨機ノ處理ニ支障ナカラシムヘシ

第十條　休暇ハ日曜祝日大祭日及年始（一月一日ヨリ同月三日マテ）年末（十二月廿九日ヨリ同月三十一日トテ）トス

第二章　醫局

診察掛

第十一條　診察掛ハ院長ノ指揮ニ從ヒ患者ノ診察治療ヲ分擔スヘシ

第十二條　處方錄ヲ製置シ患者ノ族籍職業姓名年齡病名ヲ登記シ且ツ病歷分明ナルモノハ之ヲ記スヘシ

第十三條　凡患者ニ處方箋ヲ與フルトキハ用法禁忌及攝生等ヲ懇諭スヘシ

第十四條　主任者ハ日々各室ニ就キ入院患者ヲ診察スヘシ

第十五條　患者入院ヲ願フトキハ掛醫員ニ於テ病床日誌ニ住所職業姓名年齡病名病歷等ヲ明記スヘシ

第十六條　入院患者快癒シテ院長ヨリ退院ヲ命セシトキハ其病床日誌ニ退院月日ヲ記スヘシ

第十七條　凡患者ヲ入院退院セシムルトキハ其都度庶務掛ニ通知スヘシ

第十八條　内外患者ノ月表ハ翌月五日限リ半年表ハ一月七月限リ一年表ハ翌年一月限リ調製シ庶務掛ニ送致スヘシ

第十九條　醫局ニハ診斷書死亡届及ヒ傳染病報告等ノ諸扣帳簿ヲ備ヘ置クヘシ

第二十條　重大ナル手術ヲ行フトキハ豫メ該患者ノ親族或ハ保証人ヨリ承諾書ヲ取リ置クヘシ

第二十一條　入院患者ノ食物ニ關シ物質ノ新陳調理ノ精粗分量ノ多少等ヲ監査スヘシ

往診掛

第二十二條　患者來診ヲ乞フトキハ其病家ニ就キ治療ヲ施スヘシ

第二十三條　往診ハ常宿醫之ニ應スト雖モ病家ノ情願ニ依リ院長往診スルコトアルヘシ

第二十四條　市外往診ハ輪番ヲ以テ派出シ市内ハ前日宿直ノ者之ニ應シ退院後ハ當時宿直ノ者往診スヘシ

第二十五條　豫テ往診錄ヲ製シ置キ往診セシ醫員ハ患者ノ宿所姓名年齢ヲ登記捺印スヘシ

第二十六條　病家往診ハ經過路六里以上ヨリ其日數ニ應シ旅費日當トナシ院長ハ一日金七拾錢醫員ハ金五拾錢ヲ給シ六里未滿ト雖モ宿泊スルトキハ一泊毎ニ各本額ノ日當ヲ支給スヘシ

但車馬賃ハ凡テ病家ノ自辨トス

書籍器械掛

第二十七條　書籍器械ノ出納ヲ掌リ臺帳ヲ製置シ其增減ヲ明瞭ニスヘシ

第二十八條　常ニ器械ノ準備ニ注意シ需要ノ缺乏ナカラシムヘシ

第二十九條　日用ノ器械ハ別筐ニ納メ置キ務メテ供給ニ便ナラシムヘシ

第三十條　各局ヘ出シ署ク書籍器械ハ貸渡簿ヲ製シ置キ之ニ書籍器械名ヲ記載シ各主任者ノ檢印ヲ取ルヘシ

第三十一條　手術アルトキ諸器械差支ナシ之カ準備ヲナシ手術ル終後ハ能ク之ヲ拭ヒ紛錯ナカラシムヘシ

第三十二條　器械ノ毀損紛失ハ勿論不潔錆鏽ナカラシムヘシ

第三十三條　書籍器械ノ破損或ハ減品アルトキハ其事由ヲ登錄シ院長ノ檢印ヲ受クヘシ

第三十四條　院内諸職員ニ於テ書籍器械ノ借用ヲ乞フ者アルトキハ貸渡簿ニ書籍器械名ヲ記載シ之ニ捺印セシメ貸渡スヘシ但開業醫ノ情願ニ依リ臨時貸渡スルコトアルヘシ

第三十五條　書籍及器械ヲ返納スルトキハ之ヲ仔細ニ點檢シ毀損等ナキトキハ本人ノ姓名ヲ取消スヘシ

但毀損等アルトキハ詳細其事由ヲ調ヘ院長ニ告ケ所分ヲ乞フヘシ時宜ニ依リ借受人ヨリ辨償セシムヘシ

第三十六條　毎月一回書籍器械ヲ元帳ニ照シ調査スヘシ

第三章　藥局

第三十七條　藥局ハ配劑及製藥ノ事ヲ掌ル

第三十八條　藥品並列ノ順序ヲ正シ齟齬錯雜ノ患ナカラシムヘシ

第三十九條　權衡其他調藥器具ハ勉メテ清潔ニシ銅製器械ハ殊ニ注意ヲ要ス

第四十條　劇藥毒藥ハ別筐ニ納メ調合終ルトキハ必ス錠鎖シ其他ノ藥品ト混雜スヘカラス

第四十一條　方箋藥品ノ配合ハ勿論調藥標紙ノ記載等總テ錯誤ナク調製シ速ニ患者ニ與フヘシ

但患者ノ前後ヲ亂ルヘカラス

第四十二條　調藥ヲ患者ニ與フルトキハ其姓名ヲ自唱セシメ其標紙ト照査シ之ヲ付與スヘシ

第四十三條　醫員ノ檢印ナキ方箋及ヒ月日ノ齟齬スルモノ或ハ庶務掛ノ証

印ナキモノハ配劑スヘカラス

第四十四條　方箋藥量配伍等不當ト認ムル者或ハ解シ難キ件アラハ一應之ヲ處方主ニ質シテ後チ調劑スヘシ

第四十五條　配劑者ハ其方箋ニ檢印セシ配劑誤謬アルトキハ其責ニ任ス

第四十六條　每日調劑終ル後ハ藥劑掛庶務掛立會方箋ト藥價收入簿トヲ照査スヘシ

第四十七條　方箋ハ每一月取纏メ庶務掛ニ引渡スヘシ

第四十八條　製劑ハ各何月何日誰製スト原簿ニ明記シ保存スヘシ

第四章　庶務局

庶務掛

第四十九條　院內諸般ノ庶務ヲ整理シ金錢出納及用度ノ事ヲ擔任ス

第五十條　縣廳稟議巾牒及各所ノ往復文書ヲ草案スヘシ

第五十一條　本院印章ヲ押捺シ及ヒ之ヲ監守スヘシ

第五十二條　出勤簿及日誌ヲ備ヘ置キ日誌ハ凡テ院內ニ於テ要用ナル事件ヲ登錄スヘシ

第五十三條　職員錄及履歷簿ヲ調製シ置クヘシ

第五十四條　諸簿冊ハ遞次番號ヲ記シ錯雜ナキヲ要スヘシ

第五十五條　書籍器械等ハ必ス原簿ヲ備ヘ置キ其品名價額購求年月著譯者ヲ詳記シ時々掛員ト共ニ之ヲ照査スヘシ

第五十六條　患者入院ノ節ハ其証書ヲ調査シ族籍姓名住所年齡等ヲ簿冊ニ詳記シ入退院ノ時日ヲ明瞭ニナシ置クヘシ

第五十七條　總テ患者ニ係ル事柄ハ懇切丁寧ニ取扱フヘシ

第五十八條　賄方膳部ノ善惡精粗ハ時々之ヲ檢査シ督責スヘシ

第五十九條　諸物品ヲ購求セント欲スルトキハ院長ノ裁決ヲ乞フヘシ

第六十條　院內工事ヲ要スルトキハ職工ノ見積書ヲ取リ院長ノ決ヲ取ルヘシ

第六十一條　經費中各科目ノ流用ヲ要スルモノアルトキハ每科目ノ盈縮及

ヒ其事由ヲ詳悉シ毎年二月縣廳ニ具申スヘシ

第六十二條　諸器械及藥品等ヲ購需シ之ヲ醫局又ハ藥局ニ廻付スルトキハ一々主任者ヨリ受取印ヲ取リ置クヘシ

第六十三條　金錢ハ必ス銀行ヘ預ケ保險セシムヘシ

第六十四條　金錢出納ハ院長檢印アルコアラサレハ一切受授ノ手續ヲナスヘカラス但藥價收入ハ此限ニアラス

第六十五條　都テ患者診察ヲ經テ處方箋ヲ差出ストキハ帳簿ニ記シ藥價ヲ受領ノ上割印及ヒ檢印シテ之ヲ本人ニ還付シ藥局ニ於テ藥品ト交換セシムヘシ其藥價左ノ如シ

內服藥　水散丸劑	一日分	金六錢
頓服藥　水散丸劑	一回分	金五錢
膏藥類（方三寸マテ）	五、〇一劑	金五錢
滴劑（點眼藥內服滴劑點耳藥ノ類）	五、〇一劑	金五錢

洗滌劑	一劑	三〇〇、〇	金八錢
含嗽劑	一劑	三〇〇、〇	金八錢
塗擦劑（沃陳丁幾ノ類）	一劑	一〇、〇	金六錢
撒布藥（沃度ホルムノ類）	一劑	二、〇	金六錢
巴布	一劑	三〇〇、〇	金五錢
洗滌（外傷及子宮ノ洗滌ノ類）	一回		金三錢
點眼（並ニ塗咽藥ノ類）	一回		金貳錢
電氣	一回		金五錢
吸入	一回		金五錢
灌腸藥	一劑		金六錢
皮下注入	一回		金五錢
撒絲		一五、〇	金三錢
綿	一包	（三枚）	金拾五錢

繃帶　三丈（壹本）　金拾錢
三角帶　一枚　金五錢
木綿　一尺　金壹錢

第六十六條　雜収金ノ収納及經費金受拂ノ順序ハ別ニ定ムル所ノ規則ニヨル

第六十七條　入院患者入院料ハ毎月十五日三十日ノ兩度ニ之ヲ納メシムヘシ其額左ノ如シ

上等　一日　金五拾錢
下等　一日　金三拾錢

第六十八條　藥品ハ藥局掛ノ通常豫算或ハ臨時ノ需求ニ應シ務メテ正眞ノ品ヲ購求スヘシ

第六十九條　日用消耗品ハ常ニ之ヲ買入置キ各局各掛ヨリ受取方申出ツルトキハ帳簿ニ詳記シ之ヲ渡スヘシ

第七十條　總テノ証書調査ノ上院長ノ檢印ヲ受ケ順次簿冊ニ登記シ然後書面ノ金員ヲ其當人ニ渡スヘシ

第七十一條　總テ帳簿上ハ明瞭ニ詳記シ出納錯雜ノ患ナキヲ要セン爲メ部分ヲ立テ置クヘシ

第七十二條　診察或ハ調劑ヲ乞フモノアレハ之レヲ誘ヒ懇ニ其手續ヲ示スヘシ

第七十三條　外來患者應接上ハ萬般懇切ニ待遇スヘシ

第七十四條　入院患者來訪者或ハ院中各局ヘ所用アルトキハ一々其姓名ヲ記載シ之ヲ誘導スヘシ

第七十五條　往復文書ハ都テ之ヲ帳簿ニ記載シ配付ノ際収受人ノ印ヲ受クヘシ

第五章　病室規則

第七十六條　病室ヲ別チテ男女兩室ニ區分シ更ニ細別シテ内科外科眼科婦

人科ノ四部トス

第七十七條　病室ヲ上下ノ二等ニ分チ上等ハ毎室患者二名下等ハ三名ヲ定限トス

但時宜ニ依リ增減スルコトアルヘシ

第七十八條　患者十二名ニ付看護婦一名ヲ付ス但患者ノ輕重ニヨリ增減スルコトアルヘシ

第七十九條　總テ在院患者ノ食料ハ醫員ノ檢査ヲ經ルコトアラサレハ室內ニ入ルヽヲ許サス

第八十條　入院患者ノ來訪ハ午前第六時ヨリ午後第九時迄トス

但患者危篤ナルトキハ此限ニアラス

第八十一條　來訪人ハ總テ庶務局ノ許可ヲ得ルニ非サレハ病室ニ入ルヲ許サス

第八十二條　來訪人ハ病室內ニ宿泊スルヲ許サス

第八十三條　總テ物品ヲ出入スルトキハ庶務局ノ檢査ヲ受クヘシ

第八十四條　病室ハ極メテ淸潔ニシテ且安靜ナラシムヘシ

第六章　宿直

第八十五條　各局一名宛輪番ヲ以テ宿直スルモノトス

但醫局ハ時宜ニ依リ增員スルコトアルヘシ

第八十六條　宿直ハ退院時刻ヨリ翌日昇院時刻迄院務ヲ負擔スヘシ

但例規アルモノハ其例規ニ據テ處分スヘシ

第八十七條　宿直ハ院內取締向キ殊ニ火ノ元等ニ注意シ就寢前ニハ必ス各室ヲ巡視スヘシ

第八十八條　宿直醫ハ朝夕入院患者ヲ廻診シ且院外患者ノ請求ニ應スヘシ

第八十九條　院務ニ係ル事件ハ其輕重ヲ量リ宿直日誌ニ登錄スヘシ

第九十條　器械其他貴重ノ物品ハ嚴重ニ監守スヘシ

但紛失毀損等アルトキハ宿直者其責ヲ負フヘシ

第九十一條　非常災難ノ節ハ臨機處分シ殊ニ患者ニ危險ナキ樣注意スヘシ

第九十二條　不時ニ起ル事件ニシテ直ニ處分シ難キ者アルトキハ院長ニ通報シテ其指揮ヲ受クヘシ

第九十三條　宿直助手ハ醫員ヲ補助シ專ラ治療ニ從事スヘシ

第九十四條　宿直ハ辨當料一夜金七錢ヲ給ス

第七章　入院患者心得

第九十五條　入院許可ヲ得タル者ハ書式ノ証書ヲ庶務局ヘ差出スヘシ

第九十六條　入院患者ハ必用物品ノ外携帶スヘカラス

但院內ニ於テ所有品紛失スト雖モ本院ハ其責ニ任スルコトナシ

第九十七條　寢具炭油等各自便宜ヲ以テ提携スルハ勝手タルヘシ

第九十八條　患者附添人ヲ要スルトキハ醫員ノ許可ヲ受クヘシ

但不得止ニアラサレハ附添人二人以上ヲ許サス

第九十九條　入院ノ上ハ病室規則ヲ遵守シ醫員ハ勿論看護婦ノ指圖ニ違フコトアルヘカラス

第百條　男女相互ニ往來スルハ勿論漫ニ他室ニ交通スルヲ許サス

第百一條　醫員ノ許可ナクシテ猥リニ病室ヲ離レ院內ヲ逍遙スヘカラス

但治療上散步ヲ命シタル者ハ此限ニアラス

第百二條　喧嘩口論ハ勿論放吟高談等總テ騷ケ敷擧動ヲ愼ミ夜間ハ殊ニ注意シテ他人ノ安眠ヲ妨クヘカラス

第百三條　常ニ居室ヲ清潔ニシ火ノ元等ニ注意スヘシ

第百四條　回診前ハ各其寢所ヲ離ルヘカラス

第百五條　藥用攝生等凡テ醫員ノ指揮ニ從フヘシ

但飲食物ヲ贈ル者アルカ又ハ購求セントスルトキハ其都度醫員ノ指圖ヲ請フヘシ

第百六條　醫員ノ許可ヲ經ルニアラサレハ病室內ニ於テ割烹スルヲ許サス

第百七條　患者外出ヲ要スルトキハ係醫ノ承認ヲ經テ其所在ヲ庶務局ヘ屆

出ツヘシ

第百八條　入院ノ上ハ外泊ヲ許サスト雖モ不得止事情アルトキハ保証人或ハ親族ノ証明書ヲ以テ其旨願出醫員ノ承認ヲ受クヘシ

第百九條　本人ハ勿論附添人及來訪人タリトモ室内ニ於テ飲酒スルヲ禁スヘカラス

第百十條　看護人其他賄方等不注意アルトキハ其旨醫員ニ申出ヘシ

但自ラ其不注意ヲ督責スヘカラス

第百十一條　總テ貸渡シタル諸器械ハ汚穢破損ナキ樣注意スヘシ

但破損アルトキハ時宜ニヨリ辨償セシムルコトアルヘシ

第百十二條　入院料ハ成規ノ通リ月々十五日三十日ノ両度ニ相納ムヘシ

第百十三條　前各條ニ違背シタル者ハ退院ヲ命スルコトアルヘシ

第八章　看護婦心得

第百十四條　看護婦ハ都テ醫員及ヒ庶務掛ノ指揮ヲ受ケ丁寧ニ患者ノ看護方ヲ務ムヘシ

第百十五條　新ニ入院ノ患者アルトキハ醫員ノ指揮ヲ受ケ病室ニ伴ヒ蒲團其他ノ器具ヲ貸與シ且ツ藥餌ノ用法及ヒ病室ノ諸規則等ヲ指示シ諸事不都合ナキ樣取扱フヘシ

第百十六條　毎朝擔當病室及ヒ便所等不潔ナラサル樣洒掃ヲ勉ムヘシ

第百十七條　病室内備品寢具等ハ常ニ破損セサル樣注意シ若シ破損アルトキハ庶務局ニ申出交換ヲ乞フヘシ

第百十八條　患者日用ノモノハ時々巡視シ缺乏ナキ樣注意スヘシ

第百十九條　醫員診察時間ニハ患者ヲシテ各其褥ニ就カシメ不都合ナキ樣注意スヘシ

第百二十條　治療上必用ノ諸品ハ廻診前取揃ヘ置クヘシ

第百二十一條　廻診ノトキハ其受持患者ノ側ヲ離ルヘカラス

第百二十二條　診察終ルノ後ハ處方錄及ヒ藥袋藥瓶等ヲ藥局ニ差出シ藥劑ヲ乞ヒ之ヲ各患者ニ配付スヘシ

但藥瓶等ノ類ハ日々清潔ニ洗滌スヘシ

第百二十三條　患者附添人アルトキハ藥餌ノ用法攝生ノ規則等ヲ具ニ指示シテ共ニ看護スヘシ

第百二十四條　病室規則ヲ守ラサル患者アルトキハ懇ニ說諭シ仍ホ改メサルニ於テハ醫局ヘ申出ツヘシ

第百二十五條　季候ノ寒暖ニヨリ窓戸ヲ開閉シ空氣ノ流通ニ注意スヘシ

第百二十六條　患者ノ容体異狀アルトキハ直ニ醫員ニ通報スヘシ

第百二十七條　室内ニ於テ若シ異變アルトキハ直ニ醫員又ハ庶務掛ニ申出其指揮ヲ受クヘシ

第百二十八條　火ノ元ハ一層注意ヲ加フヘシ

第百二十九條　温順ヲ旨トシ行狀端正ニ精勤スヘシ

第百三十條　職務上ニ於テ意見アラハ醫員ニ申出テ指揮ヲ乞フヘシ

第百三十一條　看護人ハ妄ニ外出スルヲ許サス若シ事故アリ外出ヲ要スルトキハ庶務局ヘ願出指揮ヲ乞フヘシ

第百三十二條　院外ヨリ患者ニ飲食物ヲ贈ル者アルトキハ直ニ醫員ニ申出指揮ヲ受クヘシ

第百三十三條　患者物品ノ購求方ヲ依頼スルトキハ庶務局ヘ申出テ指揮ヲ受クヘシ

第百三十四條　患者ノ來訪人アルトキハ庶務掛ノ指揮ヲ受ケ其室内ニ誘引シ不都合ナキ樣注意スヘシ

（書式）

入院証

入院治療相願候上ハ諸事御規則遵守候ハ勿論若シ不都合等有之節ハ保証人ニ於テ引請可申依テ入院証差出置キ候也

明治年月日　願人

福島病院庶務局御中

本書之通相違無之候也

保証人

明治二十年三月十七日　郡役所

○訓令甲第九十七號

福島病院醫管内巡回規則

二十一年四月訓令甲第七十三號ニテ訂正アリ

第一條　開業醫ノ學術技藝ヲ奬勵薫陶シ及患者ノ請求ニ應シ診斷治療セシメンカ爲メ福島病院正副院長ノ内一名巡回セシム

第二條　巡回ノ箇所左ノ如シ

信夫郡　伊達郡（桑折村保原村隔番）安達郡（二本松町、本宮村隔番）安積郡（郡山村）岩瀬郡（須賀川村）南會津郡（田島村、山口村）北會津郡（若松）麻耶郡（喜多方町、猪苗代町）河沼郡（坂下町、野澤村）大沼郡（高田村、宮下村）西白河郡（白河町）東白川郡（棚倉町）石川郡（石川村）田村郡（三春町、小野新町村）菊多郡（植田村）磐前郡（平町）楢葉郡（小濱村）標葉郡（權現堂村）行方郡（南新田村）宇多郡（中村）

第三條　巡回ハ一ヶ所滯在五日以内トシ日割ハ其都度第二部長ヨリ通牒スルモノトス

第四條　前條ノ通牒アルトキハ郡長ハ豫メ之カ準備ヲ爲シ郡内ニ告示シ及開業醫召集ノ手續ヲ爲スヘシ

第五條　巡回醫ハ郡長指定ノ場所ニ臨場シ開業醫及其子弟ニ醫術ヲ講シ又ハ醫學上ノ質疑ニ應スヘシ

但シ時宜ニヨリ難患者ノ臨床講義ヲ爲スヿアルヘシ

第六條　巡回醫ハ患者ノ請求ニ依ヨリ診察料ヲ徵セス診斷治療ニ從事ス

但藥劑ハ處方箋ヲ與ヘテ主任醫若クハ他醫ニ就テ之ヲ求メシムヘシ

第七條　巡回醫ハ醫師藥舖藥種商産婆鍼治灸治其他醫事ニ關スル營業上ニ注意シ其弊害アリト認ムルトキハ郡長警察署長分署長ニ協議シ又知事ニ具狀スヘシ

第八條　巡回醫ハ衛生上利害得失ニ就キ意見アルトキ郡長警察署長分署長ニ協議シ又ハ知事ニ具狀スルヿヲ得

第九條　巡回醫ハ傳染病及地方流行病ノ兆アルトキハ郡長又ハ警察署長分署長ニ豫防方法ヲ協議シ其景況ヲ知事ヘ具申スヘシ

○訓令甲第百四十六號　明治二十年四月二十日　郡役所

本年三月訓令甲第九十九號ヲ以テ福島病院院管內巡回規則訓令候處開業醫講習及患者治療所ニ關スル借家料小使給筆墨紙炭油費等福島病院ヨリ回付セシムヘク候條借家料一日金五拾錢以內小使給同雇拾五錢以內ヲ以テ支拂方取計フヘシ

○乙第二十四號　明治十九年三月廿六日

明治十四年縣甲第十八號達ヲ廢シ公私立病院設置規則別紙之通リ相定メ候條此旨布達候事

但從來許可ノモノト雖モ本則ニ準シ更ニ願出ツヘシ

公私立病院設置規則

第一條　公私立病院ヲ設置セントスルモノハ第一號書式ニ準シ縣廳ヘ願出ツヘシ

第二條　院長ノ外二名以上醫員ナキモノ又ハ藥局員ノ設ケナキモノ病室ノ備ナキモノハ公私立病院トシテ設置スルヿヲ得ス

第三條　公私立病院ハ第二號書式ノ標札ヲ門戸ニ掲クヘシ

第四條　院長及醫員藥局員ニ異動アルトキハ其都度縣廳ヘ屆出ヘシ

但新任ノ者ハ其履歷書ヲ添付スヘシ

第五條　公私立病院ノ位置名稱構造院則等ヲ變更セントスルトキハ其事由ヲ詳記シ縣廳ヘ願出ツヘシ

第六條　公私立病院ノ分院ヲ設置セントスルトキハ總テ此規則ニ準シ縣廳ヘ願出ヘシ

但分院ハ分院長ノ外醫員一名以上アルトキハ設置スルヿヲ得

第七條　公私立病院ノ出張診察所ヲ設クルトキハ該場所及期日ヲ定メ縣廳ヘ屆出ツヘシ

第八條　公私立病院若クハ分院ヲ廢止セントスルトキハ其事由ヲ具シ縣廳ヘ
　　届出ツヘシ

第一號願書式

公私立病院設置願

一病院位置
　何郡何町村何番地
一名稱
　公私立何々病院
一院則
　患者診察ノ手續入院及外來患者ノ心得入院料藥價手術料等ノ類
一病院建物敷地ノ略圖
　別紙繪圖面ノ通
一院長醫員及藥局員ノ履歴
　別冊ノ通
一院長以下給料
　院長　一ケ月金若干　一ケ年金若干
　醫員　一ケ月同　一ケ年同
　何々　一ケ月同　一ケ年同
　數人ノ醫師結社設立ニテ給料ノ定メナキモノハ其旨ヲ記入シ又ハ潤益
　金配當等ノ定メアラハ其方法ヲ詳記スヘシ
一病院費用
　給料額　一ケ月金若干　一ケ年金若干
　院費額　一ケ月金同　一ケ年金同
　但金若干藥品買入費金若干諸器械買入費若干營繕費金若干諸雜費
右費用總計一ケ年金若干町村費金若干（寄付金アラハ其金額）結社金若干雜收入金若干ヲ
以テ出納遣拂ノ積等云々右之通設立仕度此段奉願候也

縣令宛

第二號書式　（用材適宜）

公私立何々病院	四尺
4寸	

何國何郡何町村何番地
族籍職業
氏名

○乙第四十六號　明治十六年四月廿七日

開業醫組合規則別紙之通相定候條此旨布達候事

開業醫組合規則

第一條　開業醫組合ハ其職業ニ關スル法律規則ヲ遵守シ各自其本業ノ義務

ヲ盡サシカ爲メ之ヲ設クルモノトス

第二條　組合區畫ハ便宜郡長ノ定ムル所ニ依ルヘシ

第三條　開業醫ハ其地ノ組合ニ洩ルヽヲ得ス

第四條　組合中ヨリ幹事一名乃至二名ヲ分撰シ諸事ヲ綜掌セシム

但幹事ノ撰ニ膺リタル者ハ其旨郡役所ヲ經テ縣廳ヘ屆出ツヘシ

第五條　幹事ノ任期ハ一年トシ滿期毎ニ之ヲ改撰ス

但前任者ヲ再撰スルヿヲ得

第六條　幹事ハ組合醫員ヲシテ第一條ニ關スル業務上ニ付會合協議スルノ方法ヲ設クヘシ

第七條　幹事ハ組合現員ヲ毎年兩次一月七月郡役所ヲ經テ縣廳ヘ屆出ツヘシ

第八條　傳染病流行ノ兆アルトキハ組合ニ於テ豫防治療法ヲ協議シ郡役所ヲ經テ縣廳ニ具狀スヘシ

第九條　他組合ニ於テ傳染病流行ノ兆アルヲ發見セシトキハ其組合幹事ニ商

リ前條ノ協議ヲナスヿヲ得

第十條　衛生上ノ利害得失ニ就キ意見アルトキハ之ヲ組合ノ衆議ニ付シ其公議ヲ以テ縣廳又ハ郡役所ヘ具狀スルヿ得

第十一條　各組合協議ノ爲メ臨時幹事ノ聯合會ヲ開クヿヲ得

但會場及時日ハ其都度郡役所ヲ經由縣廳ヱ屆出ツヘシ

第十二條　各組合申合規則ヲ設ケ郡長ノ認許ヲ受クヘシ

第十三條　組合ニ係ル經費ハ渾テ其組ノ自辨タルヘシ

但別ニ支出方法ノ設アルモノハ此限ニアラス

○乙第八十七號　明治十七年八月廿三日

明治十四年（九月）縣甲第百二十二號醫師營業取締規則別冊之通改正候條此旨布達候事

醫師營業取締規則

第一條　自今今新ニ醫術ヲ開業セント欲スル者ハ明治十六年第三十五號布告同年太政官第三十四號布達ニ據ルベシ

十八年七月一日乙第七十五號ヲ以テ改正增補

第二條　管內ニ於テ醫術ヲ開業スルトキハ住所族籍姓名年齡ヲ詳記シ開業免狀寫相添ヘ縣廳ヘ屆出ツヘシ

第三條　開業醫師ハ管內外ヲ問ハス他町村ヘ轉籍若シクハ寄留スルトキハ郡役所（管內ハ移住地ノ郡役所管外ハ從來居住地ノ郡役所）ヲ經テ其旨縣廳ヘ屆出ツヘシ

但シ管內移轉ハ從來居住地ノ郡役所ヘモ屆出ツヘシ

醫術開業御屆　　私儀

本年何月何日ヨリ何國何郡何町村何番地（ニ於テ）（轉籍若クハ何誰方寄留）醫術開業仕度依テ別紙（試驗及第又ハ奉職履歷ニヨリ免狀ヲ受領シタル者ハ其旨記入スヘシ）免狀寫相添此段及御屆候也

何縣何國何郡何町村番地（何族或ハ平民）

福島縣何國何郡何町村番地（何族或ハ平民）

何誰方寄留

縣令宛

第四條　施治ノ患者若シ傳染病（虎列拉發疹窒扶私腸窒私扶赤痢賀布垤里亞痘瘡）ト診認スルトキハ明治十三年第三十四號布告及十四年縣己第二號達ニ據リ速ニ報告スヘシ

第五條　處方錄ヲ製置シ施治患者ノ住所姓名年齢及病名處方等ヲ詳記保存スヘシ

第六條　診察セシ患者ニ處方箋ヲ與フルトキ其藥名分量用方月日及患者ノ住所姓名等ヲ詳記シ幷ニ自己ノ住所姓名ヲ記シ之ニ捺印スヘシ

第七條　處方箋ハ必ス楷書ヲ用ヒ藥名分量ハ明瞭ニ記載スヘシ

第八條　診察出張所ヲ設置スルトキハ其場所及出張時日ヲ記シ縣廳ヘ届出ツヘシ

但シ廢止スルトキハ其旨届出ツヘシ

第九條　出張所ヲ設ケタル者出張時日外ニ專斷治療ヲ托スル者ヲ置クトキハ其住所族籍姓名年齢ヲ詳記シ開業免狀寫相添ヘ縣廳ヘ届出ツヘシ

第十條　施治ノ患者若シ死亡スルトキハ明治十三年縣甲第八十五號布達ニ據リ直ニ死亡屆ヲ其家人ニ付與スヘシ

第十一條　種痘醫ハ明治九年（四月）內務省甲第八號布達同十三年（九月）縣甲第百六號布達種痘規則ニ遵ヒ種痘普及ノ方法ヲ圖ルヘシ

第十二條　施治ノ患者死亡シタルトキ死者ノ遺言ヲ以テ其至親者二名以上ト連署願出ツルトキ其解剖ヲ許可スルコトアルヘシ

第十三條　假令請求ヲ得ルト雖モ診察セサル患者ニ藥劑ヲ投シ又ハ處方箋或ハ診斷証ヲ與フヘカラス

○訓令甲第二號　明治廿二年一月十一日　郡役所

今般內務省衛生局ニ於テ醫籍刊行可致ノ所最前醫術開業免狀下付以來住所ヲ轉シ候者往々有之ニ付此際總テ現住所及免狀番號ヲ記シ本月卅一日限リ其地發送本人ヨリ直ニ衛生局ヘ屆出候樣致度旨通知越候間免狀所持ノ者可屆出樣達方取計フヘシ尤モ該屆書ハ郵便端書ヲ用ヒ妨ケナシ

但シ本文屆出後住所ヲ轉シタルトキハ本文同樣其都度屆出ヘシ

○訓令甲第百四十九號　明治廿二年四月廿二日　郡役所　戶長役場

郡醫及町村醫設置準則左ノ通相定ム

郡醫及町村醫設置準則

第一條　郡醫及町村醫ヲ設置セントスルトキハ左ノ各條ニ準據スヘシ

第二條　一郡若クハ數郡聯合設置スルモノヲ郡醫トシ一町村若クハ數町村聯合設置スルモノヲ町村醫トス

第三條　郡醫ハ郡長町村醫ハ戶長之ヲ撰任スルモノトス

但數戶長役場聯合設置スル町村醫ハ郡長ニ於テ撰任スヘシ

第四條　郡醫及町村醫ヲ設置シタルトキハ縣廳ニ左ノ事項ヲ屆出ツヘシ

但變更シタルトキ亦同シ

一醫師ノ履歷

一郡醫及町村醫設置ノ場所

一同俸給

一同任期

第五條　郡醫及町村醫ハ其郡町村內ニ係ル衛生及醫事ノ狀況ヲ視察シ人民ノ健康ヲ保持增進スルノ責ニ任ス

第六條　郡醫及町村醫ハ必ス其郡町村內ニ居住スヘシ

第七條　郡醫及町村醫ノ俸給ハ左ノ程度ニ依リ適宜之ヲ定ムヘシ

一郡醫月俸拾五圓以上百圓以下

一町村醫月俸五圓以上三拾圓以下

第八條　郡醫及町村醫ノ俸給旅費及職務取扱費ハ町村費ヨリ支辨スヘシ

第九條　郡醫及町村醫ノ職務規程其他俸給旅費等支給細則ハ郡長又ハ戸長ニ於テ之ヲ定メ縣廳ノ認可ヲ受クヘシ

明治二十年四月十六日

○縣令甲第六十五號

獸醫學講習所ヲ若松及ヒ三春ニ置キ講習期限左ノ通相定候條志願ノ者ハ別紙書式ニ依リ最寄講習所ヘ願出ヘシ

但人員ノ都合ニヨリ許可セサルコトアルヘシ

若松獸醫學講習所講習期限

明治二十年四月廿日ヨリ同年九月廿八日迄

三春獸醫學講習所講習期限

明治二十年十月一日ヨリ明治廿一年三月十日迄

（書式）

入學願

私儀獸醫學志願ニ付入學御許可相成度此段奉願候也

年　月　日　　何郡何町村字番地士族（平民）何之誰　年月日生

福島縣若松（三春）獸醫學講習所御中　　右何之誰印　戸長何之誰印

○甲第三十九號　　明治廿二年三月廿六日　郡役所　檢梅委托醫

檢梅委托醫心得左ノ通相定メ明治廿二年四月一日ヨリ施行ス

檢梅委托醫心得

第一項　檢梅委托醫ハ縣令甲第廿四號娼妓梅毒檢査規則ニ依リ其擔當地娼妓ノ梅毒ヲ檢査シ及ヒ有毒患者ノ診斷治療ヲ掌ル

第二項　檢梅委托醫ノ擔當地ハ縣令甲第二十六號ノ區畫ニ依ル

第三項　檢梅委托醫ハ掛官吏ノ指揮監督ヲ受クルモノトス

第四項　患者ノ藥價ハ一患者一日金拾錢ノ割ヲ以テ之ヲ給ス

第五項　檢梅委托醫ハ患者取扱上左ノ各項ニ從事スヘシ

一　毎日患者ヲ診察スルコト

二　時々病室ヲ巡視シ患者ノ攝生及取締等ニ注意スルコト

三　患者ニ全治ノ証書ヲ授クルコト

四　患者危篤症ヲ發スルカ若クハ大手術ヲ擧行スルトキ寄留主又ハ親族ヱ通報スルコト

五　患者ニ贈ラントスル飲食物ヲ許否スルコト

六　患者ニ面會願ヲ許否スルコト

七　梅毒未治者他ノ重病ニ罹リ一時退室ヲ許否スルコト

八　患者ノ親族危篤症ニ罹リ一時退室ヲ許否スルコト

九　帳簿ヲ製シ置キ患者ノ病症經過及處方ヲ登記スルコト

○甲第二十四號　明治廿二年三月廿六日

娼妓梅毒檢査規則左ノ通リ相定メ明治廿二年四月一日ヨリ施行ス

娼妓梅毒檢査規則

第一條　娼妓ハ梅毒豫防ノ爲メ毎月三回身体ノ檢査ヲ受クヘシ

但檢査所ノ區畫及檢梅定日ハ別ニ之レヲ定ム

第二條　檢梅ハ醫員ヲシテ檢査セシメ警察官吏之レヲ監督ス

第三條　檢査室ニハ醫員ノ外入ルヲ許サス

但派出警察官吏ノ認可ヲ經タル附添婦人ハ此限ニアラス

第四條　檢梅所ハ貸座敷娼妓取締人之ヲ撰定シ所轄警察署又ハ分署ヘ届出ツヘシ但檢査室ハ醫員ノ指揮ニ依ルヘシ

第五條　取締人ハ醫員ノ指揮ヲ受ケ檢査所ノ雜務ヲ取扱フヘシ

第六條　檢査當日取締人ハ有毒娼妓ノ入院若クハ委托醫治療ヲ受クル者ノ姓名ヲ詳記シ派出警察官吏ニ届出ツヘシ

第七條　檢査時間ハ午前第九時ヨリ正午十二時迄トス但時宜ニヨリ伸縮スルコトアルヘシ

第八條　娼妓梅毒檢査證札ハ豫メ檢査醫ヨリ取締人ヲ經テ之ヲ娼妓ニ下付スヘシ

第九條　娼妓檢査所ニ出頭スルトキハ必ス檢査證札ヲ携帶スヘシ

第十條　檢査ノ上醫員ニ於テ檢査證札ニ梅毒有無ノ印ヲ押シ之ヲ娼妓ニ下付スヘシ

第十一條　檢査ノ上有毒ト認メラレタル娼妓ハ直ニ所屬驅梅院若クハ委托醫ニ就キ治療ヲ受クヘシ

第十二條　梅毒感染ノ萌アル娼妓檢梅期日ヲ待タス臨時ニ檢査ヲ乞フトキハ之ヲ檢査シ有毒ノ者ハ前條ノ例ニ依ラシメ其旨檢査醫ヨリ所轄警察署又ハ分署ニ通報スヘシ

第十三條　檢査ノ上有毒ト認メタル娼妓ニシテ他ノ重症アルモノハ場合ニヨリ入院又ハ委托醫治療ヲ猶豫スルコトアルヘシ

第十四條　檢査醫ニ於テ娼妓營業ヲ爲サントスルモノヽ身体檢査ヲ爲シタルトキ無毒ノモノニハ其證ヲ附與スヘシ

第十五條　娼妓疾病ニ罹リ檢査所ニ出頭シ難キ旨屆出タルトキハ檢査醫員其家ニ就キ檢査スヘシ

娼妓梅毒檢査證札

何縣何國何郡何町村何番地何某幾女又ハ姉妹

姓名

福島縣何國何郡何町村何番地何某方寄留

月	日	有毒又ハ無毒	日	有毒又ハ無毒	日	有毒又ハ無毒
一月						
二月						

明治何年何月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月

何病院印

或ハ檢査委托醫印

○縣令甲第二十五號　明治廿二年三月廿六日

縣立福島驅梅院規則左ノ通相定メ明治廿二年四月一日ヨリ施行ス

福島驅梅院規則

職制

第一條　本院ニ左ノ職員ヲ置ク

院長　一人

醫員　無定員

調劑掛　同

事務掛　同

第二條　院長ハ患者ノ診斷治療ヲ掌リ院務ヲ統理ス

第三條　院長ハ職員ノ能否勤惰ヲ監督シ其進退ヲ知事ニ具狀シ看護人小使等ノ進退ヲ專行スルヲ得

第四條　醫員ハ命ヲ院長ニ承ケ患者ノ診察治療ヲ分擔ス

第五條　調劑掛ハ命ヲ院長ニ承ケ藥劑配合ノ事ヲ掌ル

第六條　事務掛ハ命ヲ院長ニ承ケ文書會計一切ノ庶務ヲ掌ル

通則

第七條　本院ハ娼妓梅毒患者ヲ治療スル所トス

但驅梅院ノ區畫ハ別ニ之ヲ定ム

第八條　入院患者ハ賄料ノ外都テ院費ヲ以テ之ヲ給ス

第九條　入院中他ノ疾病ニ罹ルモノ及ヒ他病中梅毒ヲ發シ入院セシムルモノハ其他病ニ罹ル藥價ト雖モ院費ヲ以テ給ス

第十條　前條ノ他病尚癒セスト雖トモ梅毒全治スルトキハ退院ヲ命シ又梅毒未治者ト雖モ他ノ重病ニ罹ルモノハ一時退院ヲ許スコトアルヘシ

第十一條　患者全治退院ヲ許ストキハ全治ノ証書ヲ渡スヘシ

第十二條　入院患者危篤ノ症ヲ發スルカ又ハ大手術ヲ擧行スルトキハ寄留主又ハ親屬ヘ通報スヘシ

第十三條　本院ニ於テハ面會証札ヲ調製シ各貸座敷主ニ渡シ置クヘシ

第十四條　入院患者ニ對面ヲ乞フモノハ面會証札ヲ持參シ事務掛ヘ申出應接所ニ於テ面會セシム但重病患者ハ病室ニテ面會ヲ許スコトアルヘシ

第十五條　入院中親屬ノモノ危篤ノ病ニ罹ルカ或ハ不得止事故アリ一時退院ヲ乞フモノハ其家族若クハ取締人ニ於テ事實ヲ詳記シ願出院長ノ許可ヲ受クヘシ

第十六條　醫員調劑掛事務掛ノ中一名ノ宿直ヲ置キ臨時ノ院務ニ從事セシム

第十七條　本院經費出納事務ハ本縣定ムル處ノ會計條規ニヨリ之レヲ取扱フヘシ

第十八條　患者ノ食物ハ醫員其適否ヲ檢査スヘシ

第十九條　院内ニ裁縫所ヲ置キ輕症患者ニ裁縫ヲ授ケシム

第二十條　事務掛ハ左ノ各項ニ從事スヘシ

一 縣廳稟議申牒及各所ノ往復文書ヲ草案スヘシ

二 出勤簿及日誌ヲ備置キ日誌ハ凡テ院内ニ於テ要用ナル事件ヲ登錄スヘシ

三 書籍器械等ハ必ス原簿ヲ備置キ其品名價額購求年月ヲ詳記シ時々掛員ト共ニ之ヲ照査スヘシ

四 賄方膳部ノ善惡精粗ハ時々之ヲ檢査シ督責スヘシ

五 諸物品ヲ購求セントスルトキハ院長ノ認許ヲ受クヘシ

六 金錢出納ハ院長檢印アルニ非サレハ一切受授ノ手續ヲ爲スヘカラス

七 日用消耗品ハ常ニ之ヲ買入置キ各掛ヨリ受取方申出ツルトキハ帳簿ニ詳記シ之ヲ渡スヘシ

八 總テ帳簿上ハ明瞭ニ詳記シ出納錯雜ノ患ナキヲ要セン爲メ部分ヲ立テ置クヘシ

第二十一條 看護人ハ左ノ各項ヲ遵守スヘシ

一 諸職員ノ指揮ヲ受ケ丁寧ニ患者ノ看護ヲ務ムヘシ

二 診察時間ニハ患者ヲ診察所ニ伴ヒ治療ヲ受ケシメ診察終ル後ハ處方錄及藥瓶等ヲ藥局ニ差出シ藥劑ヲ受ケ之ヲ患者ニ配付スヘシ

三 病室及便所等不潔ナラサル樣毎朝掃除スヘシ

四 院外ヨリ患者ニ飲食物ヲ贈ルモノアルトキハ直ニ醫員ニ申出指揮ヲ受ケ之ヲ患者ニ渡スヘシ

五 病室心得ヲ守ラサル患者アルトキハ懇ニ說諭シ猶ホ改メサルトキハ職員ヘ申出ツヘシ

第二十二條 入院患者ハ左ノ各項ヲ遵守スヘシ

一 諸役員ハ勿論看護人ノ指揮ニ違フヘカラス

二 診察治療ヲ受クルトキハ温和ヲ旨トシ苟モ輕忽ノ擧動ヲ爲スヘカラス

三 醫員ノ許可ナクシテ猥ニ病室ヲ離レ院内ヲ逍遙スヘカラス

四 喧嘩口論ハ勿論放吟高談等渾テ騷敲擧動ヲ愼ムヘシ

五　藥用攝生等渾テ醫員ノ指揮ニ從フヘシ

六　看護人若クハ賄方等不都合ノ所爲アリト認ルトキハ事務掛ヘ申出ヘシ

七　賄料ハ定價ノ通リ賄方ヘ支拂フヘシ

○縣令甲第二十六號　明治廿二年三月廿六日

娼妓梅毒檢査定日幷ニ治療所區畫左表ノ通相定ム

檢査所及治療所區畫表

檢梅及治療醫	檢査所及檢査定日
福島檢査醫福島驅梅院	
信夫郡	福島町一日十一日廿一日　飯坂町二日十二日廿二日　瀬ノ上村七日十七日廿七日　庭坂村八日十八日廿八日　松川村九日十九日廿九日
伊達郡	桑折町三日十三日廿三日　藤田村四日十四日廿四日　保原町六日十六日廿六日　梁川町五日十五日廿五日
川俣村委托醫	伊達郡　川俣村一日十一日廿一日
二本松町委托醫	安達郡　二本松町一日十一日廿一日
公立本宮病院	安達郡　本宮町一日十一日廿一日
郡山町委托醫	安積郡　郡山町二日十一日廿一日

岩瀬郡立病院	
西白河郡	矢吹村二日十二日廿二日
小野新町村委托醫	田村郡　小野新町村一日十一日廿一日
三春町委托醫	田村郡　三春町一日十一日廿一日
白河町委托醫	西白河郡　白河町一日十一日廿一日
私立若松町病院	北會津郡　若松町一日十一日廿一日　湯本村二日十二日廿二日
坂下町委托醫	河沼郡　坂下町一日十一日廿一日
平町委托醫	確前郡　湯本村一日十一日廿一日　汐名村二日十二日廿二日
富岡村委托醫	檜葉郡　富岡村一日十一日廿二日
中村町委托醫	宇多郡　中村一日十一日廿一日
原町村委托醫	行方郡　小高村一日十一日廿一日
喜多方町委托醫	耶麻郡　喜多方町一日十一日廿一日

○乙第百三十一號　明治十八年十二月廿六日

種痘細則

第一條　種痘事務ハ郡長之ヲ總管シ戸長之ヲ掌理スヘシ

第二條　種痘期日及ヒ場所ハ郡長ニ於テ之ヲ定メ戸長ヨリ其部内ヘ通達スヘシ

第三條　戸長ニ於テハ種痘兒（十六歲未滿ノ者）人名簿ヲ製置シ異動アルトキハ其都度之ヲ加除スヘシ

第四條　戸長ハ春秋兩期ノ始ニ於テ第三號書式ノ種痘人員表ヲ製シ郡長ヘ開申スヘシ

第五條　醫師ハ本年（八月）戊第六十號達ニ依リ務メテ種痘ノ普及ヲ圖ルヘシ

第六條　醫師ハ種痘ノ善感不善感ヲ檢診シ第一號書式ノ証書ヲ付與スヘシ

第七條　種痘濟ノ証書ヲ醫師ヨリ受領シタルトキハ十日以内ニ其証書ヲ添ヘ戸長役場ヘ屆出ツヘシ

二十年七月縣令甲第百二號ヲ以テ訂正

第八條　戸長ニ於テ前條証書ヲ受領シタルトキハ直ニ種痘人名簿ヘ初種再三種ノ年月日及善感不善感ノ別ヲ記入シ証書ニ檢印ノ上本人ヘ還付スヘシ

第九條　醫師ニ於テ種痘施行後其種痘兒ノ姓名及善感不善感ヲ取調戸長役場ヘ差出スヘシ

第十一條　種痘料ノ額ハ受種痘者ノ素志ニ任スヘシ但郡長若クハ戸長ニ於テ支出法ヲ設クルトキハ本條ノ限リニアラス

第十二條　此規則ニ揭クル條項ノ外普及實施ノ方法ハ郡長ノ定ムル處ニ依ルヘシ

二十年七月縣令甲第百二號ヲ以テ第十條刪除ス

第一號書式　（用紙西ノ内六ッ切）

戸長檢印

証

縣國郡町村何某何

年　月　日　何　某

何年何月日ヲ接記スベク

初種(再三種)善感不善感

右種痘濟

國郡町村

年月日　醫師　姓名印

証書下付ノ月日ヲ記スヘシ

第二號書式ハ自然消滅

第三號書式

明治　年春秋期種痘人員表

町村名	初種	再種	三種	合計
合計				

右取調及進達候也

年　月　日　戸長

郡長宛

○戊第六十號　明治十八年八月七日　郡役所　戸長役場　衛生委員

明治十三年十月二十日番外達傳染病豫防心得書附錄トシテ種痘施術心得書別紙之通追加候條此旨相達候事

種痘施術心得書

種痘術ヲ施ス者ハ種痘ノ適否採種ノ方法痘苗採收及貯蓄ノ法善感不善感ノ鑑別種痘ノ注意等ヲ詳知セサル可カラス其要左ノ如シ

第一　種痘ノ適否

第一條　種痘ハ左ニ掲クル者ニハ施サヽルヲ可トス

一　生後七十日ヲ經サル者

二　種痘ノ爲メ一時增進スヘキ病患アル者

三　丹毒流行ノ土地ニ居住スル者

四　蔓延性ノ皮膚病アル者

五　熱性病ニ罹リ居ル者

第二條　種痘ニ適スル時期ハ春(三月四月五月)秋(九月十月十一月)二季ヲ以テ最良トス然レ𪜈四季共ニ之ヲ施シテ妨ケナシ

第二　接種ノ方法

第三條　種痘ヲ施スハ上膊(三種筋抵止ノ部位)ニ於テ各々三針乃至五針(受痘者ノ年齢体質等ニ從フ)トシ各針ノ距離曲尺五分以上ニシテ痘疱ノ暈輪互ニ密接セサル樣注意スヘシ

第四條　施術ニ先チ針尖ヲ拭淨シ一時ニ數人ニ接種スル𪜈ハ一人毎ニ之ヲ拭淨スヘシ

第五條　良性ナル痘漿ヲ採リテ移種スルヲ確實ノ良法トスレ𪜈此法ヲ行フ能ハサル𪜈ハ貯蓄ノ痘苗ニシテ成ルヘク新鮮ナル者ヲ用ユヘシ但シ痂皮ハ用ヒサルヲ可トス

第三　痘苗採收及貯蓄ノ法

第六條　痘苗ハ左ニ掲クル者ヨリ採收スヘカラス

一痘疱ノ成形過度及ヒ過大ノ者　發暈非常ニ大ナル者　疱緣又ハ暈部ニ水疱ヲ生スル者　痘疱非常ニ隆起シテ澄明ノ漿液ヲ漏出スル者　一種ノ疑フヘキ色例ヘハ紅藍色ヲ呈セサルカ如キ者

但此等ノ異常痘疱ノ近傍ニ在ル正疱モ亦同シ

二痘漿ノ血液ヲ混セル者　疱ノ中央ニ在ル痘漿ノ腐敗ニ向ハントスル者痘疱ノ己ニ化膿ニ傾キシ者　爬搔又ハ摩擦ノ爲メニ痘疱破潰セシ者

三梅毒腺病及皮膚病ニ罹リ居ル者　營養不良ノ者

四丹毒ヲ併發セシ者　經過不整ニシテ不善感ノ疑アル者

第七條　痘漿ヲ採ルハ通常接種後第八日(二十四時間ヲ一日ト算ス以下皆同シ)ヲ以テ佳トスト雖𪜈時候ノ寒暖及各人ノ性質ニ隨ヒ第七日又ハ第九日ヲ以テ適度トスルヿアリ痘疱ハ善感良性ノ者ニシテ其含包セル所ノ漿液ハ渾濁セス粘稠露滴ノ

如クナルヘシ

第八條　痘漿ヲ採ルニハ痘疱ノ中心ヲ避ケ疱面ヨリ斜ニ淺刺シ深ク刺シテ出血セシムヘカラス

第九條　發痘一顆ナルモノハ痘疱ハ其漿液ヲ採ルヘカラス又數顆アルモ其一顆ハ傷クヘカラス

第十條　痘苗ヲ貯蓄シテ接種ノ用ニ供セントスルニハ硝子板間ニ貯ヘテ密封シ又ハ硝子製毛細管ニ吸入セシメテ其兩端ヲ固封シ日光及寒熱ノ劇度ヲ避ケ貯フヘシ（痘苗ノ貯蓄法甚タ宜シキヲ得ルトキハ五ケ月間充分ノ効力アリ）

第四　善感不善感ノ鑑別

第十一條　種痘ノ善感不善感ヲ鑑別スルニハ左ノ各項ヲ以テ要點トス

一　接種後第二日以内ニ成形ヲ始メシヤ否

二　痘疱常形ニシテ其大サ及ヒ硬サハ皮下皮上共ニ同一ナルヤ否

三　紅暈ハ常形ナルヤ否

四　經過整然トシテ其時宜ヲ誤ラサルヤ否

五　第八日ニ至リテ微熱ヲ發スルヤ或ハ然ラサルモ其他ノ徵候ヲ呈スルヤ否

六　痂皮ハ黯色又ハ黑色ニシテ其厚サ及ヒ硬サハ常度ナルヤ否

第十二條　種痘善感ノ徵候ハ左ノ經過ニ就キテ知ルヘシ

接種後第一日第二日ノ間ハ他ノ刺傷ニ異ナルヿ無シ施術後針痕ノ周圍ニ淡紅色ノ小暈ヲ發スレトモ暫時ニシテ消失ス（或ハ此暈ヲ見サルヿアリ）

第三日ニハ針痕ノ部ニ小ナル紅點ヲ生シ試ニ指頭ヲ以テ之ニ觸レハ稍々隆起セルヲ覺ユ（經過緩慢ナル者ハ第四日第五日ニ至リ始メ此紅點ヲ生スルヿアリ）

第四日ニハ紅色シテ硬ク且ツ隆起セル圓形若クハ橢圓形ノ小結節ヲ生ス

第五日ニハ結節細小ノ水疱ト爲リ其周圍ニ狹キ紅暈ヲ見ル

第六日ニハ水疱稍々増大シ其邊緣隆起シテ疱ノ中央ニハ陷凹ヲ呈シ疱中ニハ稀薄透明ニシテ稍々帶監色ナル液ヲ充實シ周圍ノ紅暈稍々増大ス

第七日ニハ諸症益々増進ス

第八日ニハ痘疱全ク成形ス其大サハ豆大ニシテ周圍ハ焮腫シ微シク疼痛アリ疱中ノ液ハ倍々充實シ紅暈亦著シク増大ス此期ニ當リ（或ハ此期以前）微熱ヲ發シ或ハ全ク熱候ナク顏面ハ蒼白色ヲ呈スルヿアリ又腋下ニ疼痛ヲ覺ユ水脉腺腫起スルヿアリ

第九日ニハ紅暈更ニ増大シ其色澤モ亦加ル

第十日ニハ疱液化膿シテ白濁或ハ黃色ノ濃稠液ト爲リ疱ノ中央稍々凸隆ス然レ𪜈其形必ス扁圓ナリ

第十二日ニ至ルマテハ痘疱其形狀ヲ變スルヿ無ク此日ヨリ収斂ヲ始メ疱ノ中央ヨリ邊緣ニ向ヒテ次第ニ乾固シ漸ク褐色ニ變シ周圍ノ紅暈モ亦漸ク消退ス

爾後黯褐色又ハ黑色ニシテ堅實ナル厚痂ヲ結ヒ初メハ皮膚ニ緊著シテ容易ニ剝離セス結痂後八日乃至十日ニ至リ始メテ剝脫ス其剝脫ノ後ニ遺セル瘢痕ハ圓形又ハ橢圓形ニシテ淺キ凹窩ヲ爲シ其窩內ニハ更ニ數多ノ小凹點ヲ呈ス

但一回種痘セシ者再三種シテ感染スルヿアルモ其疱顆小ニシテ七八日間ニ全ク經過スルヲ常トス

第十三條　種痘不善感ノ諸徵ハ左ノ如シ

一接種後第二日以內ニ成形シテ始メ常形ニ達セスシテ直ニ廣ク蔓延セル炎症ヲ發シ皮下ニ硬キヲ覺ヘスシテ紅暈ハ不整形ナリ痘疱ハ速ニ化膿シ其隆起ノ狀或ハ半球形或ハ圓錐形ト爲リ乾固スレハ黃色ニシテ鬆疎ナル痂皮ヲ結フ（時トシテ第二日後ニ成形ヲ始ムル者アレ𪜈其經過總テ不整ナルヲ以テ自ラ善感ノ者ト區別スルヲ得ベシ又不善感ノ者ト雖𪜈腋下ニ疼痛ヲ覺ヘ微熱ヲ發スルヿ無ニ非ラズ）

二接種後第一日ニ大ナル赤色ノ疱ヲ生シ速ニ漿液ヲ充實シ上皮破レテ膿面ヲ呈シ或ハ濕潤セル淡色ノ痂皮ト爲ルヲ見ル

三紅暈速ニ增大シテ腫起シ或ハ遂ニ潰瘍ニ陷ル

四第八日ニ至リ數疱相合シテ一大潰瘍トナリ或ハ一面ノ痂皮ヲ結ヒ其潰瘍久ハ痂皮ノ周圍ニハ廣ク赤色ヲ呈ス

五痂皮剝脫ノ後ニ遺セル瘢痕ハ深クシテ不整形ヲ呈シ其底面平滑ナリ

第五　種痘ノ注意

第十四條　初種ノ不善感ハ痘苗ノ不良ナルカ或ハ其人一時ノ不感性ヲ有セルニ因ルモノナルカ故更ニ三四週ノ後善良ナル痘苗ヲ撰ヒテ再ヒ接種スベシ

第十五條　種痘ヲ施スニ當テハ併發症ヲ防キ殊ニ天然痘流行ノ際ニハ接種後第八日ニ至ルマテハ嚴ニ其感染ヲ防禦スベシ然レトモ受痘者已ニ暗ニ天然痘ニ感染シ其潛伏期ニ於テ接種スル間々之レアリ

第十六條　天然痘流行シ種痘ヲ猶豫ス可カラサル際ニハ第一條各項ニ掲クル者ト雖トモ熱性病ヲ除クノ外ハ總テ接種スヘシ

第十七條　種痘中ハ寒冷ヲ避ケシメ成ルヘク清潔ノ空氣中ニ居ラシムヘシ平常慣習セル食物等ハ總テ禁忌スルニ及ハス又別ニ醫藥ヲ要セス

○訓令甲第百九十號　明治廿一年十一月三十日　郡役所

種痘接種ノ爲メ每年兩度牛痘苗配布來リ候處自今廢止ス

○縣甲第百四號　明治十三年九月十日

產婆養成假規則

第一條　從來ノ產婆營業者ヲ養成センカ爲メ特ニ教授ヲ派出シ左ノ大意ヲ口授セシム

第一　婦人骨盤及ヒ兒體ノ論

第二　受胎及ヒ妊娠經過ノ論

第三　子宮ノ位置構造ノ論

第四　姙娠攝生法

第五　產婦ニ關スル要件及ヒ產婆持務ノ論

第六　產婦ノ假死及ヒ死亡ノ論

第七　胎兒ノ死生及ヒ分娩後假死ノ論

第二產　產婆養成所ハ當分各郡役所々在ノ地ニ設クルモノトス

但シ時宜ニ依リ便宜ノ地ニ設クルヿアルヘシ

第三條　從來ノ產婆營業者ハ勿論修業志願ノ者ト雖モ渾テ養成所ニ入ルヲ許ス

但シ志願ノ者ハ兼テ郡役所ヘ願出ツヘシ

第四條　當分教授日限ハ日數十日ヲ以テ期トナスト雖モ時宜ニ依リ伸縮スルヿアルヘシ

第五條　教授巡回ノ節ハ豫メ其期日ヲ郡役所ヘ通知スルモノトス

但シ郡役所ニ於テハ兼テ其手續ヲ爲スヘシ

第六條　疾病事故アリテ欠席ノ節ハ其事由ヲ教授ヘ屆出ヘシ

第七條　產婆ハ諸事教授ノ指揮ニ從フヘシ

廿一年四月縣令甲第三十一號ヲ以テ第八條ヲ刪除ス

○縣甲第一號、　明治十四年一月七日

產婆ノ術ハ盲人及ヒ男子ニシテ營業不相成候條此旨布達候事

○縣令甲第六十七號　明治二十年四月廿二日

町村衛生組合規則左ノ通相定ム

町村衛生組合規則

第一條　衛生ニ關スル事項實施ノ便ヲ圖リ町村ニ衛生組合ヲ設ク

第二條　衛生組合ハ土地ノ狀況ニ依リ概ヲ十戸以上五十戸以下ヲ以テ一組トシ戸長適宜之ヲ定ムヘシ

第三條　前條ノ範圍內ニ於テ施行シ難キ事狀アルトキハ郡長ノ認可ヲ經テ伸縮增減スルヿヲ得

第四條　衛生組合ニ組長一人ヲ置キ其撰擧ハ組合ノ公撰トス